

石橋地蔵久保遺跡
(2)

石橋地蔵久保遺跡 (2)

(主)足利伊勢崎線天良工区歩道整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書



(主)足利伊勢崎線天良工区歩道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

111 110 111

群馬県太田土木事務所 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

2023

群馬県太田土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

石橋地蔵久保遺跡（2）

(主)足利伊勢崎線天良工区歩道整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2023

群馬県太田土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

本書では(主)足利伊勢崎線天良工区歩道整備事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査の調査成果を報告します。主要地方道足利伊勢崎線は栃木県足利市を起点とし、群馬県太田市を経由して群馬県伊勢崎市に至る県道で、群馬県内を東西に繋げる重要なルートの一つとされています。

この路線の歩道整備事業に伴う発掘調査と工事立会は、太田市石橋町と同寺井町の石橋地蔵久保遺跡において、令和2年度と令和3年度に行われました。本書はその調査報告となります。なお当地では平成14年度から平成18年度にかけて発掘調査が行われており、その報告は『石橋地蔵久保遺跡』として既に刊行されております。

発掘調査が実施されました当地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である石橋地蔵久保遺跡地内に立地し、周囲にはその一部が史跡に指定された上野国新田郡家跡(天良七堂遺跡)や7世紀に建立された寺井廃寺等が存在します。今回の発掘調査では、前回の調査で発見された集落の一部と考えられる古代の竪穴建物や土坑、溝などが発見され、古代の人々の暮らしの様子の一端が明らかとなりました。

発掘調査から報告書の刊行に至るまで、群馬県太田土木事務所、群馬県地域創生部、群馬県教育委員会、太田市教育委員会をはじめ、関係機関および地元関係者の皆様には多大なるご指導とご協力を賜りました。

本報告書の上梓にあたり、関係者の皆様に心から感謝申し上げますとともに、本書が太田地域における歴史の解明に広く役立てられることを念じて、序といたします。

令和5年3月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

理 事 長 向 田 忠 正

例　　言

- 1 本書は(主)足利伊勢崎線天良工区歩道整備事業に伴う石橋地蔵久保遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。報告書作成は令和4年度主要地方道足利伊勢崎線(天良工区)社会資本総合整備(防災・安全)(交安・重点)歩道整備事業に伴う埋蔵文化財整理事業として実施された。また石橋地蔵久保遺跡は、すでに遺跡の一一部についての発掘調査報告書が刊行されているため、本書では書名に(2)を付した。なお令和3年度に実施された群馬県地域創生部文化財保護課による公共開発関連文化財発掘調査(工事立会)の成果を本書に取り入れている。
- 2 調査地の所在地
令和2年度　群馬県太田市石橋町845-5, 845-6, 846-7, 846-18, 846-19, 847-6, 847-1
群馬県太田市寺井町847-3, 889-5, 889-6, 889-8, 889-1, 889-7, 891-2, 891-3, 891-4
令和3年度　群馬県太田市石橋町846-26
- 3 事業主体　群馬県太田土木事務所
- 4 調査主体
令和2年度　公益財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団
令和3年度　群馬県地域創生部文化財保護課
- 5 発掘調査の期間と体制
令和2年度　発掘調査履行期間　令和3年1月1日～令和3年3月31日
　　調査期間　令和3年2月1日～令和3年3月31日
　　調査担当　田村 博　　太田 心
　　遺跡掘削工事請負　有限会社　毛野考古学研究所
　　地上測量委託　技研コンサル株式会社
令和3年度　調査期間　令和3年10月4日～令和3年10月5日
　　調査担当　石田 真　　今城未知
- 6 調査面積　令和2年度　459.47m²
　　令和3年度　17.77m²
- 7 整理事業履行期間　令和4年11月1日～令和5年3月31日
　　整理期間　令和4年11月1日～令和5年3月31日
- 8 本書の作成分担
　　編集　佐藤元彦
　　デジタル編集　齊田智彦
　　遺構写真撮影　発掘調査担当者
　　遺物観察　石器・石製品：岩崎泰一　　金属製品：板垣泰之
　　縄文：橋本 淳　　古代：神谷佳明　　中近世：大西雅広
　　遺物写真撮影　石器・石製品：岩崎泰一　　その他：佐藤元彦
- 9 発掘調査及び報告書作成には、群馬県太田土木事務所、群馬県地域創生部、群馬県教育委員会、太田市教育委員会をはじめ、関係機関ならびに関係各位に多くのご協力、ご指導を賜った。
- 10 出土遺物及び写真・図面等記録類の保管場所は、群馬県埋蔵文化財調査センターである。

凡　例

- 1 本報告書(以下本書)に用いた遺構名称は、混乱を避けるため発掘調査終了時点の名称を踏襲したが、令和3年度公共開発関連文化財発掘調査(工事立会)地点を1~4区とし、1号トレンチ1号土坑を5号土坑、1号トレンチ2号土坑を6号土坑とした。なお埋没土および発掘調査現場の土層・土質等にかかわる記述は発掘調査時点の調査所見に基づく。
- 2 本書に用いた座標・方位はすべて世界測地系(日本測地系2011、測地成果2011)、平面直角座標系第IX系による。
世界測地系による当所の所在は、北緯36度19分49.39秒、東経139度20分18.76秒であり、当所における座標北と真北との偏差は+0度17分35.36秒、磁北線の偏角は8度0分である。
また、遺構図中の十字記号は世界測地系(日本測地系2011、測地成果2011)、平面直角座標系第IX系に基づく基準点を示す。X値とY値の整数部末尾3桁を付記した。
- 3 遺構の主軸方位は座標北を基準とした。形状の確認できる遺構においては長軸を主軸とし、その傾きを度で示し、形状の不明なものについては計測不能のため不明とした。
- 4 遺構の標高は、原則として遺構断面図中に「L=○○m」と表記した。計測値は主軸方向を縦とし、縦：横：面積の順に記した。主軸方向の不明な遺構については長：短：面積の順での記載を原則とした。
- 5 全容が確認できない遺構については、検出部分の計測値を()付きで表記した。
- 6 遺構面積の算出に際しては、縮尺1：20の平面図を計測に用いることとした。
- 7 本書の個別遺構図版の縮尺は以下のとおりとする。
竪穴建物 1：60 溝、土坑、ピット 1：40
- 8 原則として、本書の遺物図版縮尺は土器類1/3、石製品1/2を基本とした。
- 9 本書における遺構略称は以下のとおりである。
竪穴建物 竪穴、竪 土坑 土 ピット P
- 10 本書で使用したトーンは以下のとおりである。

擾乱		ロームブロック	
灰釉		スス	
- 11 本書における土層註記及び遺物観察表記載に用いた色彩表現は、農林水産省水産技術事務局監修・財團法人日本色彩研究所色票監修1996「新版標準上色帳」に基づく。
なおデジタル現像等のデジタルデータの処理に際して、ICCプロファイルなどICCの規定に基づく色管理はなされていないので、編集時点において被写体本来の色調や色相は担保されない。
- 12 本書で使用した地形図、地勢図、地質図は以下のとおりである。
国土地理院 1：200,000地勢図「宇都宮」平成23年6月1日発行
国土地理院2.5万分1地形図「桐生」平成30年8月7日発行
国土地理院2.5万分1地形図「上野原」平成30年8月7日発行
地理院地図(電子国土Web) (<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>)
<https://maps.gsi.go.jp/vector/#17/36.330606/139.338479/&ls=vblank&disp=1>
産研地質調査総合センター、20万分の1日本シームレス地質図V2（地質図更新日：2022年3月11日）

地理院地図Vector 陰影起伏図(<https://maps.gsi.go.jp/vector/#11/36.361863/139.256172&ls=vsstd%7Chillshademap&disp=11>)

地理院地図Vector 陰影起伏図(<https://maps.gsi.go.jp/vector/#14.248/36.33335/139.33163&ls=vsstd%7Chillshademap&disp=11>)

農研機構 日本国土インベントリー土壤図(<https://soil-inventory.rad.naro.go.jp/figure.html>)

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2007「大間々扇状地と大鷦遺跡」「大鷦遺跡」

- 13 同一遺跡の発掘調査報告書として、下記の報告書が刊行されている。

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2007『石橋地蔵久保遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

調査時遺構名	掲載時遺構名
公共開発関連文化財発掘調査1号トレンチ1号土坑	→ 1~4区5号土坑
公共開発関連文化財発掘調査1号トレンチ2号土坑	→ 1~4区6号土坑

目 次

序	第3章 確認された遺構と遺物
例言	第1節 調査区の概要と基本土層 ······ 19
凡例	第1項 調査区の概要 ······ 19
目次	第2項 基本土層 ······ 19
挿図目次	第2節 確認された遺構 ······ 28
表目次	第1項 遺構の概要 ······ 28
写真目次	第2項 確認された遺構 ······ 28
	第3節 出土遺物 ······ 38
第1章 調査経過と調査の方法	
第1節 調査に至る経緯 ······ 1	第4章 まとめ
第2節 調査の経過と方法 ······ 3	1 石橋町周辺の地形について ······ 44
第2章 周辺の環境	2 石橋町周辺の遺跡分布について ······ 44
第1節 地理的環境 ······ 6	
第2節 歴史的環境 ······ 9	写真図版
	抄録
	夷付

挿図目次

第1図 道路の所在	2	第17図 3～5号竪穴建物	30
第2図 調査区の位置	3	第18図 6・7号竪穴建物	31
第3図 調査区設定	5	第19図 1号溝	32
第4図 周辺の地質	7	第20図 2号溝、3号溝	33
第5図 周辺の地形	8	第21図 4号溝	34
第6図 周辺の遺跡	11	第22図 1号土坑	34
第7図 石橋町久保遺跡調査区全体図	20	第23図 2～4号土坑	35
第8図 調査区別図1(東端)	21	第24図 5・6号土坑	36
第9図 調査区別図2(中央東)	22	第25図 ピット	37
第10図 調査区別図3(中央)	23	第26図 出土遺物1	39
第11図 調査区別図4(中央西)	24	第27図 出土遺物2	40
第12図 調査区別図5(西端)	25	第28図 出土遺物3	41
第13図 基本上部図1	26	第29図 大間々丘陵地東脇側部の地形と土壤	45
第14図 基本上部図2	27	第30図 大間々丘陵地東脇側部の道路分布	46
第15図 1号竪穴建物	28	第31図 石橋町周辺の竪穴建物分布模式図	48
第16図 2号竪穴建物	29		

表 目 次

第1表 周辺遺跡一覧	14	第6表 遺物出土状況	38
第2表 竪穴建物一覧	32	第7表 遺物觀察表	42
第3表 溝一覧	34	第8表 未掲載遺物(古墳時代～中近世)	43
第4表 土坑一覧	36	第9表 刃片、礫集表	43
第5表 ピット一覧	37		

写真目次

PL. 1

- 1 石橋地蔵久保道路 1区の調査着手時の状況(西から)
- 2 石橋地蔵久保道路 2区の調査着手時の状況(東から)
- PL. 2
 - 1 令和3年度立会調査地図(1~4区)の着手時の状況(東から)
 - 2 1~1区全景(東から)
 - 3 1~2区全景(東から)
 - 4 1~3区全景(東から)
 - 5 1~4区 1号トレンチ全景(東から)
- PL. 3
 - 1 1~4区 2号トレンチ全景(東から)
 - 2 2~1区全景(東から)
 - 3 2~2区全景(東から)
 - 4 2~3区全景(東から)
 - 5 2~4区全景(東から)
 - 6 2~5区全景(東から)
 - 7 2~6区全景(東から)
 - 8 2~7区全景(東から)
- PL. 4
 - 1 1号空穴建物全景(北東から)
 - 2 1号空穴建物西半上層断面(北から)
 - 3 1号空穴建物東半上層断面(北から)
 - 4 2号空穴建物全景(東から)
 - 5 2号空穴建物全景(南東から)
 - 6 2号空穴建物東半上層断面(南から)
 - 7 2号空穴建物西半上層断面(南から)
 - 8 3・4・5号空穴建物全景(東から)
- PL. 5
 - 1 3・4・5号空穴建物全景(北東から)
 - 2 3・5号空穴建物西側上層断面(北から)
 - 3 3・5号空穴建物東側上層断面(北から)
 - 4 3・5号空穴建物中央部上層断面(北から)
 - 5 6・7号空穴建物全景(東から)
 - 6 6・7号空穴建物全景(北から)
 - 7 6・7号空穴建物中央部上層断面(北から)
 - 8 6・7号空穴建物西側上層断面(北から)

PL. 6

- 1 6・7号空穴建物東側上層断面(北から)
- 2 1号溝全景(東から)
- 3 2号溝全景(北から)
- 4 1号溝上層断面(西から)
- 5 3号溝全景(北から)
- 6 4号溝全景(北から)
- 7 1号土坑全景(西から)
- 8 1号土坑上層断面(東から)

PL. 7

- 1 2号土坑全景(東から)
- 2 2号土坑上層断面(西から)
- 3 3号土坑全景(北から)
- 4 3号土坑上層断面(東から)
- 5 4号土坑全景(北から)
- 6 5・6号土坑全景(北から)
- 7 5・6号土坑全景(西から)
- 8 5・6号土坑上層断面(南から)

PL. 8

- 1 5・6号土坑上層断面(東から)
- 2 5号土坑上層堆積状態(南東から)
- 3 1号ビット全景(東から)
- 4 1号ビット上層断面(西から)
- 5 2号ビット全景(北から)
- 6 2号ビット上層断面(西から)
- 7 3号ビット全景(北から)

PL. 9

遺物写真1

PL. 10

遺物写真2

第1章 調査経過と調査の方法

第1節 調査に至る経緯

本書は、(主)足利伊勢崎線天良工区歩道整備事業に伴う事前の埋蔵文化財発掘調査の調査成果を報告するものである。

主要地方道足利伊勢崎線（以下、本路線）は栃木県足利市を起点とし、群馬県太田市を経由して群馬県伊勢崎市に至る県道である。栃木県と群馬県の二県に跨ることから、栃木県内部分は栃木県道39号足利伊勢崎線、群馬県内部分は群馬県道39号足利伊勢崎線と呼称されている。群馬県内における本路線は、北関東自動車道（高崎市 - 茨城県水戸市）と県道2号前橋館林線（前橋市本町 - 館林市緑町）の間に位置しており、県内を東西に繋げる重要なルートの一つとされている。

事業対象地である、太田市の中央部に位置する石橋町周辺は栃木県足利方面と栃木県足尾方面からの街道が交わる交通の要衝として、また周辺で生産された生糸の集荷場所として古くから賑わったと伝えられている。現代においても、石橋町地内において本路線は主要地方道太田大間々線（太田市西本町 - みどり市大間々町）や東武鉄道東武桐生線（太田市太田駅 - みどり市赤城駅）と交差しており、地域間交通の要衝となっている。また、本路線と太田大間々線の交差する石橋十字路の周囲には、東部桐生線治良門橋駅や太田市立強戸小学校、同強戸中学校のほか強戸児童館や強戸こども園、強戸保育園などがあり、本路線は通勤・通学・通園と、日常生活に際し多様に利用されている。

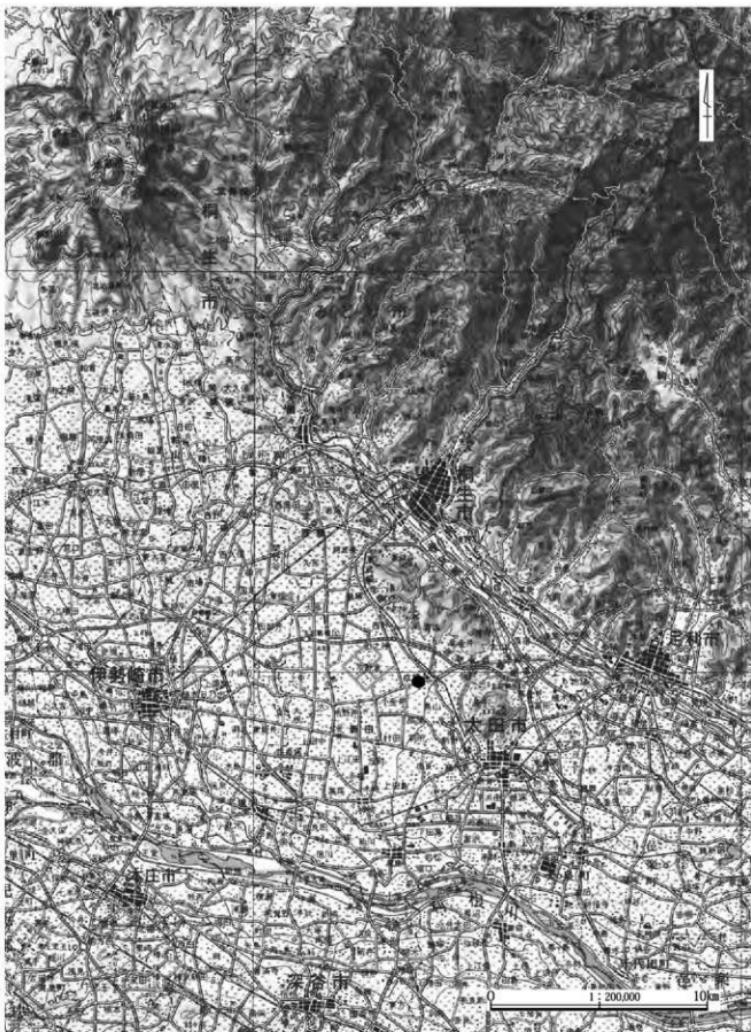
本路線は近隣小中学校の指定通学路の一部となっているが、歩道がなく危険であるとの指摘がなされていた。そうした地域の声を踏まえ、「まちのまとまりをつくり、公共交通でつなぐ」という「ぐんま『まちづくり』ビジョン」の理念を実現し、多様な移動手段を確保するための実行計画である「群馬県交通まちづくり戦略」の基本方針1「地域的な暮らしの足の確保」に基づく、戦略1-1「多様な移動手段の確保」の一環として、歩行者・

自転車の安全な移動空間の確保のため、歩道整備や自転車通行空間整備を推進する事業の一つとして、県道足利伊勢崎線（天良町工区）歩道整備が実施される事となった。なお、歩道整備事業自体は平成26年度から令和4年度を事業期間とし、令和4年度には舗装工事を実施し、事業が完了する予定となっている。

石橋町及び寺井町に立地する令和4年度歩道整備予定地（以下、用地）は周知の遺跡である石橋地蔵久保遺跡（太田市遺跡番号T0442）内に位置し、その西北西200mほどの地点には7世紀に建立された寺井廃寺があり、西400mほどの地点からはその一部が史跡とされた上野国新田郡家跡（天良七堂遺跡）が発見されている。また用地に隣接する石橋十字路周辺から、古墳時代から平安時代に至る集落が発見されており、西500mほどの地点からも古墳時代の建物を含む集落が確認されるなど、埋蔵文化財が濃密に包蔵される地域と周知されている。これらを踏まえ、平成27年5月8日に群馬県土整備部建設企画課から提出された「公共開発計画一覧表」を受けた群馬県教育委員会文化財保護課（以下、保護課）は、工事に先立つ事前の試掘・確認調査が必要と判断し、平成27年6月26日にその旨の回答が行われた。

試掘・確認調査は平成28年1月27日と令和元年8月20日に実施された。保護課による用地内4地点での試掘・確認調査の結果、豊穴建物や溝、土坑などが濃密に分布する状況が確認され、数点の土器も出土していることから、本調査が必要と判断され、令和2年9月24日、太田土木事務所よりの事業地に関する必要書類（法94条通知・添付書類）の提出を受けた太田市教育委員会から群馬県地域創生部文化財保護課（以下、県保護課）への進達が行われ、群馬県知事から発掘調査の勧告が行われた。また令和2年12月11日、太田土木事務所よりの追加の事業地に関する必要書類（法94条通知・添付書類）の提出を受けた太田市教育委員会から県保護課への進達が行われ、群馬県知事から発掘調査の勧告が行われた。

群馬県太田土木事務所及び県保護課、太田市教育委員会による協議・調整が行われ、公益財団法人群馬県埋蔵



(国土地理院 1:200,000地勢図「宇都宮」を加工。)

第1図 遺跡の所在

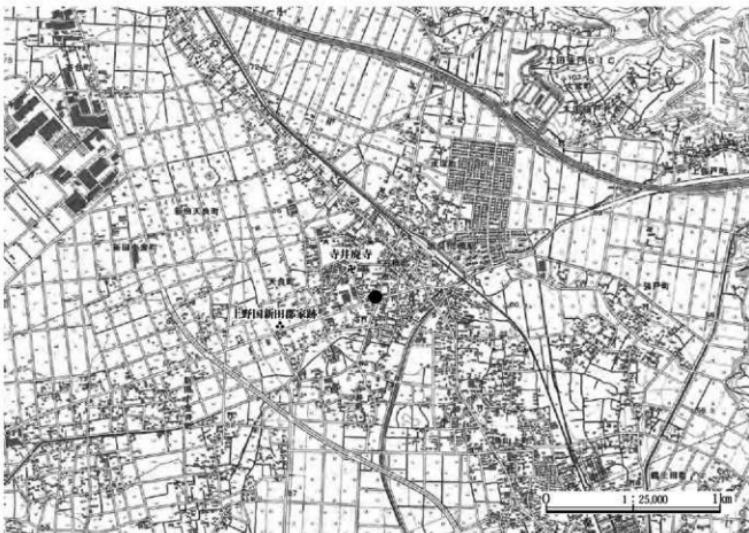
文化財調査事業団により本調査が行われることとなつた。発掘調査事業は令和3年1月1日から令和3年3月31日に実行されることとなり、令和3年2月1日から3月31日を調査期間として発掘調査が実施された。

令和3年6月15日、太田土木事務所より追加の事業地に関する必要書類（法94条通知、添付書類）が太田市教育委員会に提出された。太田市教育委員会はこれを進呈し、群馬県知事は事業地が狭小であることから工事立会を勧告した。

工事立会は令和3年10月4日県保護課により行われた。追加の用地に設置された2か所のトレンチで平面及び土層断面観察が行われ、2基の土坑と少量の土師器片が検出され記録保存された。工事立会は令和3年10月5日に完了した。

第2節 調査の経過と方法

発掘調査は群馬県太田土木事務所を事業主体とし、令和3年2月1日から同年3月31日に実施された。発掘調査対象地（以下、用地）は県道足利伊勢崎線石橋十字路の西、石橋町と寺井町にまたがる200m程の区間の路線北側である。石橋町側を1区、寺井町側を2区とした。用地は治良門橋駅前の市街地にあり、路線沿いに12棟ほどの民家や商家が道に面し、玄関や通用口、地下配管や空中架線などの密集する場所である。発掘調査は近隣住民の生活環境への配慮を重視し、用地の県道側に安全柵、住宅等民有地側には単管を支柱とした結界を設置した。また民有地への進入路を充分に確保し、上下水道等の地下埋設物や電線・電話線等の空中架線に留意して発掘調査を行った。



(国土地理院2万5千分1地形図「桐生」「上野境」を編集、加工。)

第2図 調査区の位置

第1章 調査経過と調査の方法

発掘調査は令和3年2月1日から周辺整備に着手し、2月4日より表土掘削、遺構確認等の作業を開始した。

以後、用地内で確認された埋蔵文化財の記録保存調査を行い、3月31日までに埋戻し及びプレハブ事務所撤去等の作業を完了し、同日付けて群馬県太田警察署に埋蔵物発見届を提出し、発掘調査を終了した。

発掘調査は、建設機械による表土掘削の後、古代～中世の遺構面（第1面）の調査を行った。遺構確認及び遺構調査は作業員による人力掘削で行った。その後、一部の調査区で旧石器確認調査を実施した。旧石器確認調査を行った調査区については、安全確保のため確認調査終了後ただちに作業員の手で第1面程度の高さまで埋め戻しを行い、その後に他の調査区とあわせて建設機械による埋め戻し・転圧・碎石敷設を行った。

遺構番号は遺構種ごとの通し番号とし、区に依存しない固有番号とした。また遺構の観察・記録、写真撮影等は発掘調査担当者が行い、各遺構の図化は測量会社への測量委託とした。遺構写真的撮影に際しては2000万画素の一眼レフ・デジタルカメラと6×7判の一眼レフ・フィルムカメラを使用した。

工事立会は令和3年10月4日と同5日に実施された。用地は2月に着手された発掘調査時に未調査区画となっていた、1-1区と1-2区の間に位置する18mに満たない場所である。工事立会は用地内に2か所のトレンチを設置して行われた。遺構番号は立会調査に限定して付与されており、以前の遺構番号と整合しないため、整理時に重複しない番号を付与した。埋蔵物発見届は、令和3年10月7日群馬県太田警察署に提出された。

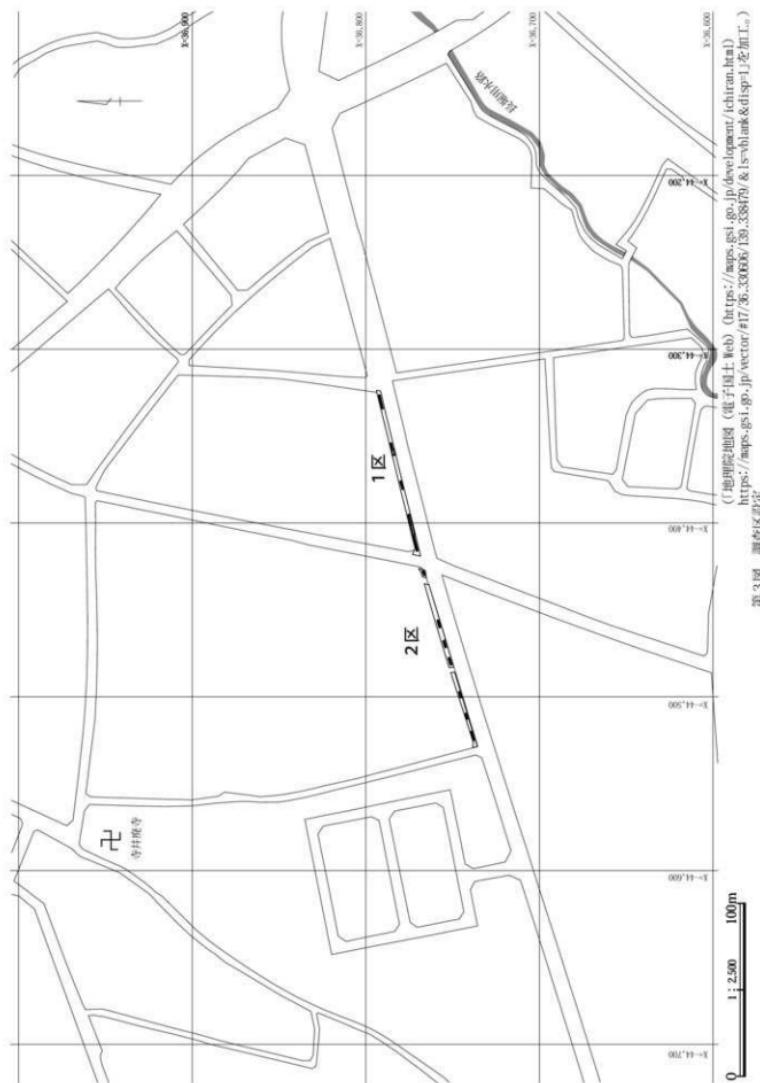
表土掘削には建設機械を用い、遺構の検出、観察・記録、測量・実測、写真撮影等は調査担当者が行った。遺構写真的撮影に際しては1600万画素の一眼レフ・デジタルカメラを使用した。

発掘調査日誌抄録

令和3年

- 2月1日 周辺整備着手、調査事務所設置準備。
3日 安全フェンス設置着手。
4日 1区、2区表土掘削開始、遺構確認を行う。
9日 遺構確認継続、2号土坑等遺構写真撮影。
10日 申し入れに基づきフェンス一部撤去。
12日 遺構確認、遺構掘削継続。
2-1区旧石器確認調査。
17日 遺構掘削継続、4号溝等写真撮影。
18日 遺構掘削継続、3号竖穴建物等写真撮影。
申し入れに基づき仮設トイレ移動。
22日 遺構掘削継続、6号竖穴建物等写真撮影準備。
26日 1区遺構精査。1区、2区旧石器確認調査。
3月1日 1区、2区遺構精査。
2日 1区、2区旧石器確認調査。
8日 1区旧石器確認調査継続。
12日 保守、終了業務着手。
16日 埋め戻し作業開始。
23日 安全フェンス撤去。
24日 撤収に向け保守・残務作業。
29日 保守、原状復帰作業。
31日 保守、原状復帰作業継続。
調査事務所撤去。撤収完了。
- 10月4日 工事立会着手。
5日 工事立会完了。
7日 埋蔵物発見届提出。

第2節 調査の経過と方法



第2章 周辺の環境

第1節 地理的環境

石橋地蔵久保遺跡（以下、遺跡）は群馬県太田市（以下、市）に所在する。平成17年に太田市・新田郡尾島町・同新田町及び同轍塚本町の1市3町が新設合併して、人口21万人を超える新「太田市」が誕生、平成19年からは特例市となった市の、中央部北寄りに遺跡は位置する。

市は、関東平野の北西部に位置する群馬県の南東部、東京から北西へ86kmほど離れた場所に位置する。南に利根川、北に渡良瀬川と、東流する二つの河川に挟まれた市の東は邑楽郡大泉町、同邑楽町、柄木県足利市、西は伊勢崎市、南は埼玉県熊谷市、同深谷市、北は桐生市、みどり市に接している。市の北部に位置する八王子丘陵（茶臼山丘陵、茶臼山、標高294m）とその南に位置する金山丘陵（金山、標高239m）を除き、市の大半は標高30mから110mの平坦部となっている。遺跡は八王子丘陵（茶臼山丘陵）の南端近くに位置し、市の西側平坦部の多くを占める大間々扇状地の東端付近に存在している。なお、太田断層は桐生市鹿田山丘陵（鹿田山、標高232m）の北から邑楽郡千代田町の利根川左岸（標高25m）に至る全長約26kmに及ぶ活断層であるが、弘仁地震（818年）の震源とも目されている。断層は八王子丘陵の東辺沿いに存在し、一般国道122号〔栃木県日光市 - 東京都豊島区〕と一般国道50号〔前橋市 - 茨城県水戸市〕の一部はこれに並走するよう位置している。

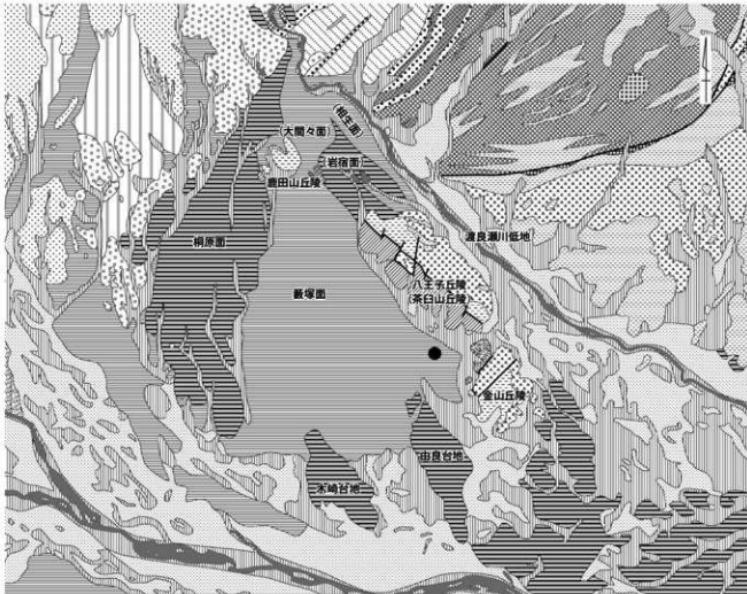
また、高速自動車国道北関東自動車道〔高崎市 - 茨城県ひたちなか市〕が市の北部地域を通過して高速自動車国道関越自動車道〔東京都練馬区 - 新潟県新潟市/上越市〕と、高速自動車国道東北自動車道〔埼玉県川口市 - 青森県青森市〕とを接続している。また鉄路に目を向ければ、東武鉄道により市の東西（伊勢崎線〔東京都浅草駅 - 伊勢崎駅〕）、南北（桐生線〔太田駅 - 赤城駅〕、小泉線〔館林駅 - 西小泉駅/太田駅〕）は結ばれており、東京都への接続口ともなっている。

現在では市の北を東流している渡良瀬川は、およそ5万年前までは市の北に位置するみどり市大間々町付近

から南流し、その流域西辺は鹿田山丘陵の西から赤城山東南麓にまで及び、概ね深谷市方向に向かい利根川に合流していたと考えられている。その後川の流れは赤城山麓沿いから離れ、鹿田山丘陵の鹿田山と岩宿遺跡で知られる琴平山（標高196m）の間から南流し、利根川に合流する。やがて川の流れは東に移り、2万年前頃には八王子丘陵の東辺沿いへと流れを変えたとされる。そして大間々町高津戸や桐生市相生町などに河岸段丘を形成し、ついには大間々付近で90度東へと流れを変えて現在に至っている。

大間々市街地の北を扇頂として赤城山東南麓と八王子丘陵の間を南に広がる、南北約18km扇端の幅約13kmに及ぶ大間々扇状地は、上述した渡良瀬川の5万年を越える活動の記録である。主に桐原面（古周期扇状地）と戴塚面（新規扇状地）の新旧2面から構成された成合扇状地と評されている。「笠懸野」と呼ばれた荒地である大間々扇状地の扇頂近く、鹿田山丘陵と八王子丘陵（茶臼山丘陵）の間に位置している阿左美沼（旧沼、水深約2.6m）は渡良瀬川の残した三日月湖とされる。大間々扇状地の扇端は太田と伊勢崎を結ぶ標高50~55m付近とされ、遺跡の南西に位置する新田地域にはかつて12か所にも及んだ湧水地群が存在する。中世の新田開発はこの豊富な水源を基盤としている。なお、足尾山地に端を発する渡良瀬川が築いた大間々扇状地から得られる湧水は、概ね赤城山に由来するものとの調査結果が報じられている。渡良瀬川が桐生市域を流れるようになってからは、戴塚面は水利に恵まれない土地であり、八王子丘陵西麓付近一帯が帶状の水田地帯となるのは、早くも19世紀後半以降のことと考えられる。

大間々扇状地と渡良瀬川低地を区分する八王子丘陵（茶臼山丘陵）と金山丘陵は、その大部分が中生代ジュラ系付加体（足尾带）である足尾山地の南端であったものが、断層が生じたことで足尾山地から切り離され、そこに生じた谷を東遷した渡良瀬川が開析することで現在の地形になったとされる。八王子丘陵の西面はなだらかな尾根が複数張り出しており、その谷には自然湧水もあり小川の流れる谷地が形成されている。



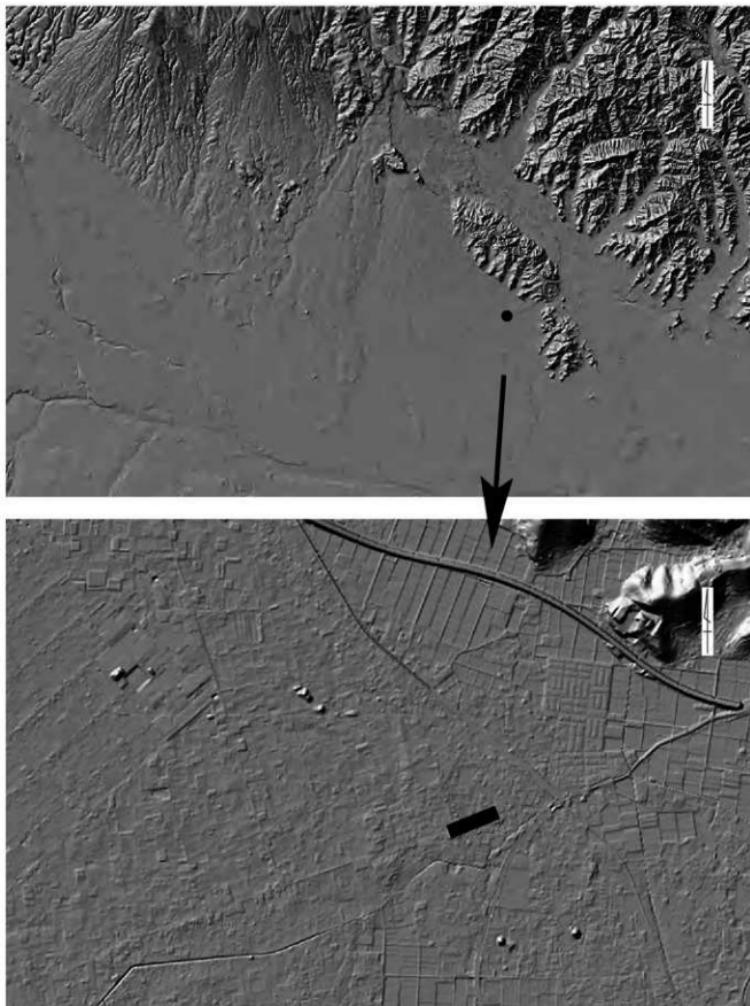
(「資源研地質調査総合センター、20万分の1日本シームレス地質図V2（地質図更新日:2022年3月11日）」を加工。)

見附

Q3-H_sd	C13-J_1_soil_J1
■ 新生代 第四紀 後期更新世 堆積岩、砂礫堆・保水堆植物	■ 古生代 石炭紀 後期ミシシッピアン系紀～中生代 二疊紀 付加体、チャート 前期～中期ジラフ紀付加体
H_sd	C13-Tc_soil_J1
■ 新生代 第四紀 完新世 堆積岩、自然防護堆植物	■ 古生代 石炭紀 後期ミシシッピアン系紀～中生代 二疊紀 付加体、海成層 砂岩質 前期～中期ジラフ紀付加体
H_sd	C13-P1_soil_nJ1
■ 新生代 第四紀 完新世 堆積岩、自然防護堆植物	■ 古生代 石炭紀 後期ミシシッピアン系紀～ペルム紀 シストラリーン岩 付加体、玄武岩 海岸 前期～中期ジラフ紀付加体
Q3-33_std	J2-1_soil_J2
■ 新生代 第四紀 後期更新世中期～後期更新世後期 堆積岩、段丘堆植物	■ 中生代 中期ジラフ紀～後期ジラフ紀 オックスフォードアン用 付加体、海成層 砂岩 中期～後期ジラフ紀付加体
Q1_std	J2-3L_soil_J2
■ 新生代 第四紀 後期更新世前期 堆積岩、段丘堆植物	■ 中生代 中期ジラフ紀～後期ジラフ紀 オックスフォードアン用 付加体、泥岩質 中期～後期ジラフ紀付加体
Q2_std	C13-J2_soil_J2
■ 新生代 第四紀 更新世後半バニアン期 堆積岩、段丘堆植物	■ 古生代 石炭紀 後期ミシシッピアン系紀～中生代 中期ジラフ紀 バージシアン期 付加体、チャート 中期～後期ジラフ紀付加体
N3_std	C13-Tc2_soil_J2
■ 新生代 新第三紀 中新世 マッサンアン期～鮮新世 堆積岩、汽水或潮ないし海成・非海成混合岩 売岩	■ 古生代 石炭紀 後期ミシシッピアン系紀～中生代 中期ジラフ紀 バージシアン期 付加体、チャート 中期～後期ジラフ紀付加体
J1-32_soil_J1	C13-Tc2_soil_nJ2
■ 中生代 後期ジラフ紀～中期ジラフ紀 バージシアン期 付加体、泥岩質 前期～中期ジラフ紀付加体	■ 古生代 石炭紀 後期ミシシッピアン系紀～中生代 中期～後期ジラフ紀 付加体、海成層 砂岩質 中期～後期ジラフ紀付加体

Q3_vh_al	Q3-x_ad
■ 新生代 第四紀 後期更新世 火成岩、安山岩、玄武岩質安山岩層・火成岩	■ 新生代 第四紀 後期更新世 火成岩、大山岩、別名ながれ堆植物
Q2_vb_al	N1_vb_al
■ 新生代 第四紀 更新世 チハニアン期 火成岩、安山岩、玄武岩質安山岩層・火成岩、火碎岩	■ 新生代 新第三紀 中新世 バーディガリアン期 火成岩、安山岩、玄武岩質安山岩層・火成岩、火碎岩
N1_van_ap	P1_van_ap
■ 新生代 新第三紀 中新世 バーディガリアン期 火成岩、安山岩、玄武岩質安山岩層・火成岩、火碎岩	■ 新生代 古第二紀 最新世 ダニアン期～始新世 ガブレンシアン期 火成岩、デイサイト・流紋岩 大規模水陸波
P1_van_ap	K2_gm_s
■ 新生代 古第二紀 最新世 ダニアン期～始新世 ガブレンシアン期 火成岩、デイサイト・流紋岩 大規模水陸波	■ 中生代 後期白堊紀 セノマニアヌ期～サントニア期 火成岩、花崗閃長岩、トーナル岩 框块、島弧、火嘴

第4図 周辺の地質



(「地理院地図Vector 隱影起伏図」
<https://maps.gsi.go.jp/vector/#11/36.361863/139.256172&ls=vstd%7Chillshademap&disp=11> と
<https://maps.gsi.go.jp/vector/#14.248/36.33335/139.33163&ls=vstd%7Chillshademap&disp=11>を加工。）

第5図 周辺の地形

第2節 歴史的環境

遺跡の所在する太田市石橋町周辺の地理的環境・歴史的環境については高島（2007）をはじめとして末尾に付した参考資料に詳しい。本節では末尾に記載した諸資料を基に、遺跡周辺の主な遺跡の分布図（第6図）とその一覧表（第1表）を掲載し、当地域の概要を記載する。なお遺跡周辺の地形に関しては新倉（2007）や谷藤（2013）による詳細な地形分類図がある。

1 旧石器時代

大間々扇状地の南東端に位置する由良台地の南端付近（太田市富沢町）からナウマンゾウの歯の化石も出土している太田市域は、旧石器時代の生活に適した場所であったと思われ、主に金山丘陵周辺から槍先形尖頭器やナイフ形石器などの狩猟道具が出土している。また団外ではあるが、金山丘陵の南東に位置する東長岡戸井口遺跡では大規模なキャンプ跡も見つかっている。とはいえて大間々扇状地が形成されつつある時代でもあり、扇端以南に位置する由良台地や木崎台地などのローム層台地と八王子丘陵の東側からの検出事例が主体であり、八王子丘陵の西側からの出土は限られるようである。

金山丘陵に近い峯山遺跡（46）からナイフ形石器、削器、抉入石器、槍先形尖頭器などが、雷電山遺跡（53）から槍先形尖頭器やナイフ形石器などが、萩原遺跡（44）からはナイフ形石器が出土している。扇状地周辺部に位置する成塚住宅団地遺跡群（64）では木葉形尖頭器やエンドスクレイバーが採集されており、西長岡宿遺跡（21）から黒色安山岩製のサイドスクレイバーが、西長岡横塚古墳群（22）では石核やチップが出土している。また強戸口峯山遺跡（54）では後期終末の荒屋型彫刻刀が出土している。なお成塚向山1号墳（62）では墳丘の盛土の中からナイフ形石器、エンドスクレイバー、削器、石核などの石器が検出されている。

2 繩文時代

縄文時代に至っても前代と変わらず、八王子丘陵の東側から南にかけての地が生活の中心とされているが、徐々に丘陵の西側にも居住域が広がっていったと考えら

れている。丘陵の尾根筋の先端部や、尾根に挟まれた谷地を流れる小川の丘を背にした後背地などが集落の適地と考えられている。また丘陵の西に位置する低湿地と後代に笠懸野と呼ばれる平坦地との境界部分からも遺跡が検出されており、全体的な傾向として、居住域が丘陵の高い処から徐々に平地に移行するとの指摘もある。また笠懸野からは石斧や石礫などが検出されており、狩猟採集の場と考えられている。

市域最古とされる集落は金山丘陵東側の小段丘上に築かれた東金井町下宿遺跡とされ、爪形文土器が出土している。石橋町周辺では成塚住宅団地遺跡で草創期の柳葉形尖頭器が採集されている。

早期の遺跡としては、西長岡宿遺跡や西長岡横塚古墳群、菅塩遺跡群（27）、上遺跡（110）などが知られている。西長岡宿遺跡では燃系文土器や押型文土器が多数出土し、屋外炉しき遺構も検出されている。上遺跡からは稻荷台式に比定される土器片や貝殻条痕文系の土器片などが出土している。また岩崎遺跡（5）では田戸下層式の土器片が出土している。

前期になり、気候の温暖化に伴い定住化の傾向が進展したことにより、団外になるが金山丘陵南東の龍舞町間に原遺跡では広場を廻む27棟の竪穴建物が確認されている。石橋町周辺でも八王子丘陵（茶臼山丘陵）の尾根上を中心につ数の遺跡が確認されている。西長岡横塚古墳群では包含層中から前期の土器片と石礫などが出土しており、岩崎遺跡からは前期中頃の黒浜式土器片が出土している。また西野原遺跡（12）では竪穴建物1棟が確認されている。

太田市周辺では中期後半から後期後半にかけてが人口増の画期とされ、八王子丘陵の西側を含め各地にムラが生じるが、赤城山南麓や榛名山東麓・南麓にみられるような大規模化の傾向は確認されていないようである。成塚住宅団地遺跡では中期後半の竪穴建物4棟が検出され、出土した土器には中部高地や東北地方の系統のものも含まれる。西野原遺跡では加曾利E3式期の竪穴建物8棟からなる環状集落が確認されている。

西長岡宿遺跡では後期の竪穴建物7棟、配石遺構約200基が検出されており、配石遺構は方形を主とするが、列石、集石等、多様な形態が含まれている。また天良七堂遺跡（82）でも竪穴建物1棟が調査されている。

3 弥生時代

弥生時代の市域南東部は渡良瀬川、利根川とその支流が発した広大な氾濫原となっていたと考えられており、全般に遺跡数も少なく、その規模も小さいとされる。入り組んだ谷間の低地を水田として利用し、その後背の微高地に小集落を形成する生活様式のためか、金山丘陵や八王子丘陵（茶臼山丘陵）の斜面から遺跡が検出される傾向が指摘されている。また八王子丘陵の西に位置する低湿地内の微高地も居住域と考えられている。

石橋町周辺では、八王子丘陵（茶臼山丘陵）の西麓斜面に立地する西長岡東山古墳群（15）から中期後半の土器が出土しており、西長岡横塚古墳群では後期の土器が採集されている。また大間々扁状地の東辺に位置する西野原遺跡から中期の竪穴建物が11棟検出されており、北島式土器と磨製石鎌が出土している。

4 古墳時代

縄文時代や弥生時代に既に集落が存在していた場所のほか、これまで居住域とされていなかった市域平坦部の沖積低地内の低台地とその周辺部にまで、東海系の土器を伴う集落が形成されるようになる。また、これらの集落を統合する統率者を葬る施設として古墳が築造された。国外ではあるが金山丘陵東南に位置する内ヶ島町天神山古墳は埴丘長210mを測る東日本最大の前方後円墳であり、畿内政権との強いつながりが指摘されている。平坦部で進められた居住域の拡大については、八王子丘陵東の蛇川・寺西川下流域、蛇川・寺西川上流域、八王子丘陵西の荒川・矢場川流域の3地域が開発の拠点とされている。

前期の集落遺跡としては市内米沢の石田川遺跡が有名であるが、成塚住宅団地遺跡群では前期の竪穴建物約100棟が検出されており、成塚石橋遺跡、西長岡宿遺跡、菅塙遺跡群、大鷲遺跡群（49）、新田東部遺跡群（101）、唐桶田遺跡（103）、脇屋深町遺跡（146）など多くの遺跡から竪穴建物が検出されている。また新田東部遺跡群の中溝・深町遺跡では、小銅鏡や内行花文鏡を作り、方形区画に囲まれた居館が調査され、県史跡に指定されている。

石橋町周辺の初期古墳としては全長55mの前方後方墳

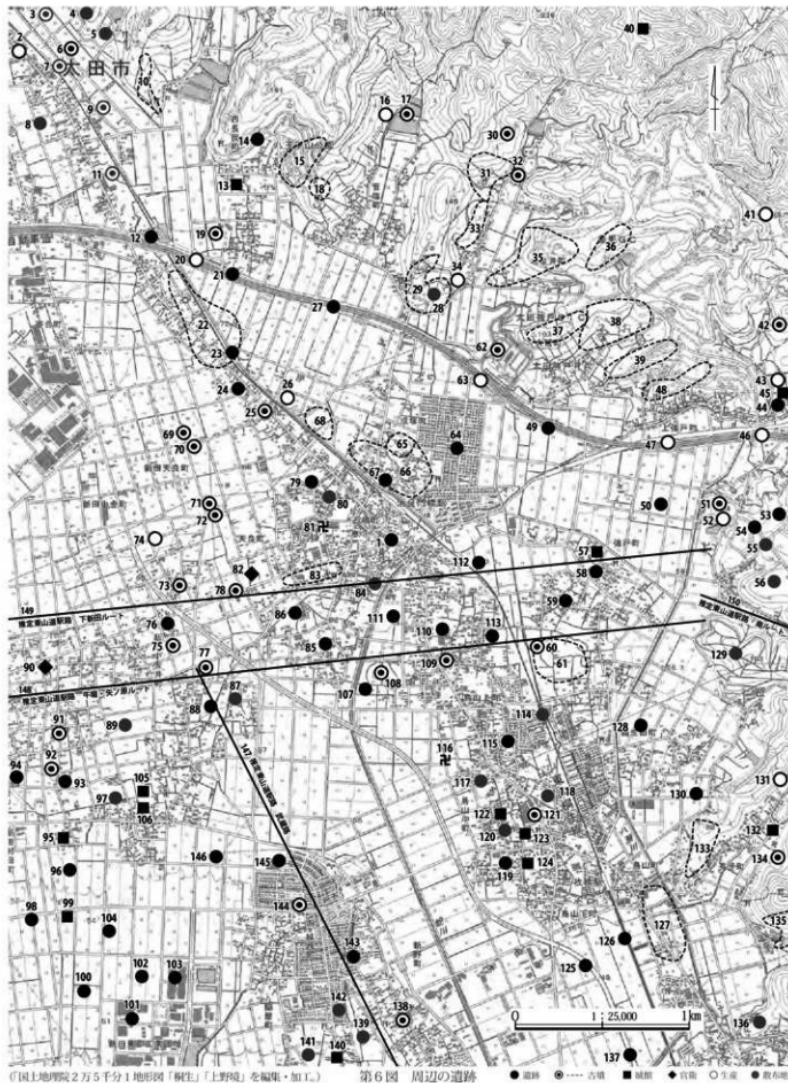
である寺山古墳（51）が知られている。また成塚向山古墳群からは4世紀に築造された一辺21mの方墳が検出され、主体部から銅鏡、鉄劍などが出土したほか、竪穴建物も検出されている。なお西長岡東山古墳群では古墳時代初期から前期に至る方形周溝墓群や古墳時代後期の古墳群と共に、弥生時代後期の樽式土器の系譜を引く土師器を出土する集落跡が確認されている。8基の方形周溝墓が検出された成塚古墳群（66）のほか、新田東部遺跡群、唐桶田遺跡、堂原遺跡などからも方形周溝墓が検出されている。

石橋町周辺に存在する中期の集落遺跡としては、成塚住宅団地遺跡群、前沖遺跡（125）、新田東部遺跡群、堂原遺跡（145）などが知られている。成塚住宅団地遺跡では竪穴建物約360棟のほかに、居館関連遺構として一辺100m前後の方形区画も調査されている。

中期には、市域の沖積地内の微高地にも古墳が築かれようになったとされる。全長102mの前方後円墳であり、後円部頂頭には竪穴式石室を有し、鉄製甲冑類、石製模造品などが多数出土した鶴山古墳（108）や帆立貝式古墳の龜山古墳（109）、墳丘長66mの前方後円墳である鳥崇神社古墳（121）などが存在する。また、成塚住宅団地遺跡群では8基の周溝墓が確認されている。

後期の集落は大間々扁状地端部に位置する台地や八王子丘陵（茶臼山丘陵）、金山丘陵、高林台地などに分布する傾向が指摘されており、成塚住宅団地遺跡群、成塚石橋遺跡、石橋地蔵久保遺跡（1）、西野原遺跡、堂原遺跡などで集落が確認されている。また八王子丘陵（茶臼山丘陵）や金山丘陵が埴輪や須恵器の生産拠点とされており、石橋町周辺でも成塚住宅団地遺跡群、菅塙祝人窓跡（16）、駒形神社埴輪窓跡（34）などで窓が確認されている。このほか西野原遺跡では7世紀後半の製鉄が確認されており、一大工業地帯との指摘もある。なお大間々扁状地の東辺に位置する本遺跡の集落もこの時代の遺構を初現としている。

後期から終末期にかけて、八王子丘陵（茶臼山丘陵）や金山丘陵及び沖積低地内の微高地に群集墳が築かれるようになる。沖積低地内に位置する古墳としては、2基の前方後円墳であるニッ山古墳（69,70）と西長岡横塚古墳群や西野原遺跡の古墳群などが存在する。また国外ではあるが湯之入と滝之入の二つの谷に挟まれた丘陵の



『国土地理院2万5千分1地図図「甲生」「上野城」を編集・加工。』

第6図 周辺の遺跡

山頂から延びる尾根上には山寄せの古墳群が存在する。このほか八王子丘陵（茶臼山丘陵）の麓には成塚古墳群、西長岡東山古墳群、上戸古墳群（48）、大鷲梅穴古墳群（37）、貧乏塚古墳群（135）などが存在し、尾根筋には北金井御嶽山古墳群（35）などが存在する。

5 奈良・平安時代

7世紀中頃、大化の改新に伴う地方行政単位として「評、五十戸」が導入され、8世紀には大宝律令に基づく「国郡里制」に編制され、やがて「郡郷制」に整えられる。太田市周辺は当時の「新田郡」に含まれ、新田、津野、石西、祝人、淡甘、駿家の6郷が置かれた。

新田郡に含まれる天良七堂遺跡では、昭和30年の6間×3間の南北棟総柱大型礎石建物と多量の炭化米の検出にはじまり、正倉の一角を構成していたと考えられる大規模な総柱建物の検出に続き、平成19年に郡庁の道構が検出され、平成20年に「上野国新田郡家」として遺跡の一部が史跡に指定されている。新田郡家は、中央に建てられた正殿と前殿の四間を長屋建物と呼ばれる回廊のように細長い掘立柱建物と廻で囲み、その周りに多くの倉庫を配置し、その周囲を溝で囲んでいたと想定されている。敷地の南側は推定東山道駅路下新田ルート（149）と接している。

天良七堂遺跡の西南1km程の場所には、5間×3間の南北棟瓦葺礎石建物が2棟並列して検出された入谷遺跡（90）が存在し、その南には推定東山道駅路牛堀・矢ノ原ルート（148）が位置している。新田駿家とも想定された入谷遺跡は7世紀後半頃に建設され、8世紀中葉頃まで存続したと考えられている。

また天良七堂遺跡の北東に約500m、本遺跡の西北西におよそ200m、寺域を考慮すればほぼ隣接地ともいえる場所に、7世紀末に建立されたと推定される寺井庵寺（81）が位置しており、出土した創建期の瓦は大和の川原寺系とされる。7世紀後半から10世紀に至る各時期の瓦が多数出土しており、中心部の調査は行われていないものの、大規模な伽藍をもつた寺院であったとされる。寺は在地豪族による造営であり、新田郡家と密接な関係を有していた寺院と考えられている。寺井庵寺想定地の北500m程の場所に位置する菅塩西両台遺跡（26）から上幅約7m、深さ約1.8mの流水痕の大溝が検出さ

れており、これを寺地を区画する溝とする見解も提示されている。なお、新野脇屋遺跡群の堂原遺跡、釣舟遺跡（143）から東山道武藏路（147）と思われる古代道路が確認されており、上述した二つの東山道駅路と合流するといわれている。

古墳時代に金山丘陵周辺で始まった須恵器生産は当代も引き継がれ、古墳時代後期から平安時代に至る須恵器窯が多数確認されているのに加え、八王子丘陵（茶臼山丘陵）に位置する萩原窯跡（43）などからも須恵器窯が確認されている。また西野原遺跡や峰山遺跡などで大規模な製鉄遺構が調査されるなど、八王子丘陵（茶臼山丘陵）・金山丘陵一帯は埴輪窯、須恵器窯に加えて、製鉄遺構を含めた一大窯業・製鉄地と考えられている。

石橋町周辺で確認された主だった集落遺跡としては成塚住宅団地遺跡群、成塚石橋遺跡、中溝遺跡（104）、上野井遺跡（94）、年保遺跡（137）などが存在する。成塚住宅団地遺跡群は弥生時代後期から続く集落であり、奈良時代・平安時代を通して各時代ともそれぞれ200棟以上の建物が検出されている。成塚石橋遺跡は古墳時代中期から発展し、平安時代まで継続する集落である。中溝遺跡も古墳時代から平安時代に至る集落であり、9世紀から10世紀の瓦が検出されている。上野井遺跡では奈良時代の堅穴建物が検出され、年保遺跡では奈良時代の大規模建物が検出されている。

天仁元（1108）年の浅間山の噴火により火山灰が厚く堆積するなど、太田市周辺にもその降灰被害が及んでいる。その痕跡は菅塩遺跡群、大霧遺跡群、成塚遺跡群（63）、島谷戸遺跡（20）などで確認されており、As-Bで埋没した水田が検出されている。なお、上戸遺跡群では8世紀中葉に埋没したと推定される水田も確認されている。太田周辺の荒廃した田畠の再開発の推進者として、源義重（1135-1202、新田氏本宗家初代）が知られている。義重は降灰対策を、平安時代後半から鎌倉時代初期にかけて進展された莊園開発の一環に組み込むことで、新田郡内の田畠の再開発を進め、保元2（1157）年に至り新田莊を成立させたとされる。その後も庄園化は進み、現在の太田市の中部から西部はほぼ新田莊に相当し、金山丘陵を挟み東部は伊勢神宮の神領として蘭田御厨や寮米保、大倉庫が営まれたと伝えられる。また郡内には、東大寺の維持管理資金を調達するために

指定された封戸が存在していたとされる。

6 中世

治承4（1180）年8月、源頼朝（1147-1199）の蜂起に際し、主筋である平宗盛（1147-1185）の意により国入りした新田義重は、当初は立場を明らかにせず、頼朝の參陣依頼にも応じないでいたが、年末に至り帰順し参陣、御家人にとどまり鎌倉時代を迎えていた。新田本宗家を中心には、世良田、岩松、高林、額戸などの庶子家を輩出し、惣領制のもと新田莊は発展をとげている。八王子丘陵の谷や谷の入り口に水田や集落が形成され、笠懸野は地名の由来となった騎射や狩猟などを行う鍛錬の場とされた。

元弘3（1333）年3月、後醍醐天皇（1288-1339）の輪旨を受けた新田氏8代新田義貞（1301-1338）は新田町市野井の生品明神に挙兵した。越後の新田一族と甲斐源氏の兵と合流し、呼応する兵を合わせながら南下、小手指が原（埼玉県所沢市）や分倍河原（東京都府中市）に幕府軍を破り、天然の要害である鎌倉を包囲する。5日の攻防の後、鎌倉は攻め落とされ、北条一族は自害し鎌倉幕府は滅亡に至った。討幕の報を受けた後醍醐天皇による建武の新政が始まると、義貞は光厳上皇（1313-1364）の院宣を受けた足利尊氏（1305-1358）に京都を追われた。北条氏の支援を得た足利氏による室町幕府が成立し、京と吉野に南北の朝廷が並存する事になった。この過程で、南朝方の新田義貞は北陸に戦死し、弟の脇屋義助（1305-1340）は四国に寄死している。新田本宗家没落後の新田莊は、新田義重孫女（生没不詳）と源義康（足利氏本宗家初代、1127-1157）孫足利義純（1175-1210）との間に生まれた時兼（1195-没年不明）を祖とし、岩松郷（尾島町岩松）を本拠とした岩松氏の支配下におかれた。なお脇屋町の観音免遺跡（140）が脇屋義助跡と伝えられている。

15世紀に至り、古河公方と関東管領の対立期に、両勢力の境界地帯を領する岩松氏は二派に別れ内紛するが、対立派の衰退により岩松家純（1409-1494）の支配が確立し、文明元（1469）年に金山城（132）を築城し東毛地方の制圧を図った。その後も親族間の内紛は繰り返され、その都度重臣横瀬氏による仲裁が行われたが、横瀬氏8代由良成繁（1506-1578）により下克上されるに

至った。

天正元（1573）年由良成繁は渡良瀬川や桐生川の水利を争う桐生親綱（生年不詳-1598）の桐生城（桐生市梅田町、柄杓山城）を落とし桐生領を得、上杉方への備えとする。翌年には八王子丘陵茶臼山の湯之入合戦など、上杉方との攻防戦が生じている。天正6（1578）年上杉謙信（1530-1578）死亡による御館の乱の影響により、上杉氏の上野支配が終息する。天正11（1583）年由良国繁（1550-1611）は長尾顕長（1556-1621）と組み後北条と対立するも、天正13（1585）年に金山城は後北条氏に接收され、由良氏は桐生領に退去する事になる。

脇屋義介の居所とされる脇屋館など、新田一族が居住した単郭方形館を基本とする環濠屋敷が各地に存在している。一族はその居住する郷名・地名を名乗りとしているので、前述の脇屋館や村田館（上野井遺跡）、烏山館（123）、小金井馬場北館跡（105）などはその隸属が確立されているが、中溝遺跡や馬場環濠遺構（106）など系統未詳の遺構もまた多い。なお長岡城（13）、唐沢山城跡（40）などは秀郷流藤原氏系の築城とされる。

参考資料

（2章1節）

阿山要元 1970「群馬県大間を盾状地における自由地下水について」『群馬県立大学地質学研究報告』6・7 pp.117-124

太田市 2022「市のあらまし」「平成4年度、太田市の概要」

太田市 2006「第Ⅲ章 1. 新田地域の湧水の形成機構」「平成17年度新田地域湧水地保全整備事業調査・分析報告書」pp.5-12

国立研究開発法人産業技術総合研究所 2018「地域の総合的な活断層調査（関東地方）」、平成29年度成果報告書

国立研究開発法人産業技術総合研究所地質調査総合センター 2022「第1章 地形」「新生及足利地域の地質」「pp.1-5

谷藤保彦 2013「第2章 道跡の位置と環境」「笠松道跡・駿府道跡・天良七堂道跡」pp.6-14
中央防災会議、災害教訓の継承に関する専門調査会 2010「第4章 山間部の土砂災害、特に渡良瀬川流域について」「1947カスリン台風報告書」pp.101-117

新吉明彦 2007「II.周辺の環境」「大糸道跡」pp.5-14

新田町町誌刊行委員会、新田町 1990「第一編第一章第一節 大地の成り立ち」『新田町誌 第一巻通史編』pp.3-12

（2章2節）

尾島町 1993「尾島町誌 通史編 上巻」

太田市 1996「太田市史 通史編 原始古代」

群馬県 2017「マッピングぐんま 道跡マップ」

高島英之 2007「第2章 道跡の地理的・歴史的環境」「石橋地蔵久保道跡」pp.6-20

中島他 1978「群馬県太田市富沢よりナウマンゾウの臼歯発見」「地球科学32巻5号」pp.254-256

新田町町誌刊行委員会、新田町 1990「新田町誌 第1巻通史編」

較厚本町誌編纂室、較厚本町 1991「較厚本町誌 上巻」

第1表 周辺遺跡一覧

遺跡名	所在地	ブレ	礎文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	種別・性格	備考	文献
1 石橋地蔵久保道跡	石橋町 384-1 他			○	○	○				古墳～平安集落、中世溝	墨書き器「新田」 〔人田〕	6、24、25、49
2 三島道跡	蔽塙町 1434 他						○			散在地		
3 八石道路	蔽塙町 289 他			○	○	○	○	○		散布地、古墳		
4 渡ノ入前道跡	蔽塙町 179 他			○						散布地		
5 岩崎道跡	蔽塙町 3280 他			○						散布地		
6 街道橋古墳	蔽塙町 2721-1 他			○	○	○				散布地、古墳		
7 西野東上道跡	蔽塙町 2836 他			○	○	○	○	○		散布地、古墳		
8 西野西道跡	蔽塙町 3034-4 他			○						散布地		
9 西野東中道跡	蔽塙町 2695 他			○	○	○	○	○		散布地、古墳		
10 西長岡天神山古墳群	西長岡町 1367 他						○			円墳		
11 西野東下道跡	蔽塙町 2554 他			○	○	○	○	○		散布地、古墳		
12 西野原道跡	蔽塙町 2450-1 他			○	○	○		○	○	礎文弥生古墳平安集落、古墳、古代製鉄	蔽塙西野原道跡	68、69、70
13 長岡城	西長岡町 736-3								○	城館	益田氏	48
14 愛宕山道跡	西長岡町 1583-29				○		○			古墳集落、古墳、平安室窓、小殿台		40
15 西長岡東山古墳群	西長岡町 1695 他			○	○		○			弥生古墳集落、古墳、方形溝溝溝		1、39、40
16 菅塙祝入空跡	菅塙町 1211-4						○			生産遺跡		1
17 菅塙祝入古墳群	菅塙町 1251 他				○					古墳		1
18 菅塙西山古墳群	菅塙町 1271 他				○					古墳		1
19 西長岡宿古墳群	西長岡町 708				○					古墳		1
20 猪谷川道跡	西長岡町 353 他			○	○		○			B下水田		69
21 西長岡宿道跡	西長岡町 395 他			○	○	○		○	○	礎文古墳平安集落、 西長岡宿道跡		42、64、65
22 西長岡横塙古墳群	西長岡町 364 他			○	○	○	○	○	○	古墳、奈良平安集落	小型家型石棺	14、38、43、 66、67
23 西長岡南道跡	西長岡町					○				古墳、集落		66、67
24 爽太塚道跡	西長岡町 109-1 他				○					集落、古墳		43
25 T0429 古墳	菅塙町 38 地先				○					古墳		
26 菅塙西内台道跡	菅塙町						○	○		大溝	官衙或は社寺か	66
27 菅塙道跡群	菅塙町 200 他			○	○		○			古墳集落、平安水田	I字紋岩版	59
28 菅塙田谷道跡	菅塙町			○						散在地？		1
29 菅塙山崎古墳群	菅塙町 1048 他				○					古墳		
30 西高坪古墳群	北金井町 1399 他				○					古墳		
31 北金井西山古墳群	北金井町 1343 他				○					古墳		
32 T0097 古墳	北金井町 600				○					古墳		
33 北金井川西古墳群	北金井町 527-2 他				○					古墳		
34 霧形神社周輪室跡	北金井町 402				○					埴輪窓、集積場		1
35 御山古墳群	北金井町 1036 他				○					古墳		1
36 北金井東浦古墳群	北金井町 988 他				○					古墳		
37 大賀海穴古墳群	北金井町 321 他				○					古墳		1
38 大賀大平古墳群	北金井町 317 他				○					古墳		
39 大賀向山古墳群	北金井町 288-6 他				○					集落、古墳		41、42
40 吉沢山城跡	吉沢町 2575-1 他							○		城館		48
41 落内沢窯跡	吉沢町 1501						○			生産遺跡		
42 吉沢古墳群	吉沢町 2406 他				○					古墳		

第2節 歴史的環境

遺跡名	所在地	ブレ	纏文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	種別・性格	備考	文献
43 萩原空跡	吉沢町 2113-1 他				○	○				生産遺跡	寺井廃寺瓦	
44 萩原遺跡	吉沢町 2085 他	○		○	○	○	○	○	○	社寺。平安集落・水田		72
45 萩原城	吉沢町							○		城館		48
46 峯山遺跡	強戸町 2121 他	○		○		○				散布地、生産遺跡		1、74、75
47 上強戸遺跡群	上強戸町 1833 他			○		○	○	○		古墳～平安水田、中世居館・鍛冶工房		56、57、58
48 上強戸古墳群	強戸町 2048 他				○					集落、古墳		
49 大鷲遺跡群	大鷲町 26 他			○		○	○	○		古墳古代集落、平安中世水田		52
50 寺の東道路	強戸町 1116		○							集落		
51 寺山古墳	強戸町 2033 他			○						古墳		
52 鶴巻西遺跡	強戸町 165-1 他			○						生産遺跡		
53 雷電山遺跡	緑町 2043-18 他	○	○	○	○	○	○			散布地、集落、生産遺跡		
54 強戸口峯山遺跡	緑町 2044-32 他	○		○	○	○				散布地、集落、生産遺跡		
55 鶴巻道路	強戸町 2027-72 他		○	○						散布地		
56 越々山道路	強戸町 2062-77 他	○	○	○						散布地		
57 強戸の寄居	強戸町 585-1							○		城館	強戸地図	48
58 強戸宮西遺跡	強戸町 947 他		○	○						集落		
59 煙中道路	強戸町 459 他			○						集落		
60 藤五郎塚古墳	強戸町 415			○						古墳		
61 鶴生田古墳群	鶴生田町 1046 他			○						古墳		1
62 成塚の山古墳群	成塚町 501-1 他	○		○	○					古墳～平安集落、古墳		16、63
63 成塚遺跡群	成塚町 300 他				○	○	○			平安水田		62
64 成塚住宅用地道路群	成塚町 131 他	○	○	○	○	○	○			園文～平安集落、古墳付帯、古墳、周溝渠、埴輪室		1、12、31、32、33、34、35、36、60
65 荘平塚古墳群	成塚町 847 他			○	○	○	○			集落、古墳		
66 成塚古墳群	成塚町 792 他		○	○			○			鶴ヶ古墳～平安集落、古墳	成塚縄荷塚古墳	1、12、43、60、61、66
67 成塚石橋遺跡	成塚字石橋		○	○	○	○	○	○		古墳～中世集落、飼立貝式古墳	円筒埴輪軸	43、60、61、66
68 成塚街道北古墳群	成塚町 920 他			○						鶴形埴輪		1、14、23、66、67
69 二ツ山古墳一号墳	新田天良町 167-85			○						後期前方後円墳	生品村 1号	1、86
70 二ツ山古墳二号墳	新田天良町 167-172			○						後期前方後円墳	生品村 2号	86、89
71 天良蛇塚古墳	新田天良町 167			○						円墳	生品村 3号	86
72 新生湖古墳	新田天良町 77-3			○						円墳		
73 堀廻古墳	新田小金井町 1647 他			○						古墳	生品村 5号か	86
74 堀廻道路	新田小金井町 1613 他	○	○	○	○	○	○			古代～近世土坑、溝		54
75 笠松古墳	新田小金井町 1468-1			○						古墳		
76 笠松遺跡	新田小金井町 1468-1		○	○				○		溝・掘立柱建物群	26、54、85、86	
77 松尾神社古墳	新田小金井町 1115			○						古墳	生品村 9号	86
78 寺井塙古墳	新田小金井町 1564-1			○						古墳		82、86
79 寺井廃寺北道路	天良町 105-1 他			○	○					集落		
80 寺井廃寺東道路	成塚町 1115 他			○	○	○				集落、社寺		
81 寺井廃寺	天良町 96-4 他				○	○				白鳳～平安寺院	川原寺式軒瓦	1、6、23、39、45
82 天良七丘遺跡	天良町 20 他		○		○	○	○			官衙	史跡上野国新田郡家	5、6、20、21、22、41、54、83、84、85、86、87、88

第2章 周辺の環境

遺跡名	所在地	ブレ	繩文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	種別・性格	備考	文献
83 寺井古墳群	寺井町 694 他				○					後期古墳群、円墳		
84 鶴ノ宮遺跡	寺井町 785-2 他				○					散布地	国分寺系真、三 彩陶器、瓦塔	1
85 久保惣遺跡	寺井町 523-2 他				○	○				集落	推定東山道駿路 牛船矢ノ原ルート	6、23
86 新田前遺跡	寺井町 614-1 他				○					集落		
87 寺井本郷遺跡	寺井町 285 他				○	○	○			散布地		
88 上根遺跡	新田小金井町 1108 他	○		○	○					古墳奈良集落	推定東山道駿路 牛船矢ノ原ルート	53、87、88、 92
89 柳原遺跡	新田村田町 1157 他		○				○	○	○	散布地		
90 入谷遺跡	新田村田町 2001 他			○	○					官衛	7～8世紀鉢柱 礎石建物、雷電 山鹿瓦	45、77、78、 79、80
91 入谷古墳	新田村田町 1705-1 他				○					古墳		
92 四軒北古墳	新田村田町 1579			○						古墳		86
93 村田・本郷B遺跡	新田村田町 1016 他			○			○	○		集落、中世方形区画		86、90、92
94 上野井遺跡	新田市野井町 1066 他			○	○	○	○	○	○	古墳平安集落、古代 社寺、瓦塔、中世館	村田館、村田氏	5、81、82、 86、87、88、 90、93
95 村田本郷劇場	新田小金井町、新田村 田町 1008 他						○	○	○	城館		48、86
96 村田・本郷遺跡	新田村田町 932 他				○		○	○		古墳平安集落、縄織 陶器		4、86、87、 91、94
97 上新井遺跡	新田村田町 1611 他				○					散布地		86
98 中屋敷東遺跡	新田村田町 814 他				○	○	○			古墳平安集落、円形 周溝		94
99 村田田中館	新田村田町								○	城館		48
100 一本杉遺跡	新田小金井町 372 他				○	○	○	○	○	古墳～平安集落、日 下水器	小型防護築	94
101 新田東部遺跡群(中 溝・深町遺跡ほか)	新田小金井町 427 他	○		○	○	○				礎文古墳平安集落、 古墳居館	中溝・深町遺跡 は県指定史跡	86、95
102 中溝II遺跡	新田小金井町 490 他				○	○	○	○	○	古墳集落	小型廻廊	94、95
103 唐橋田遺跡	臨尾町 1056 他				○					集落、方形周溝墓		11、15
104 中溝遺跡	新田小金井町 525 他				○	○	○	○		古墳～平安集落、縄 織陶器、中世館		86、94
105 小金井馬場北館跡	新田小金井町 958						○	○	○	城館	小金井氏	86
106 馬場環濠遺構	新田小金井町								○	城館		48
107 八幡遺跡	鳥山上町 2074 他	○		○	○	○	○			古墳～平安集落		1、46、50
108 鶴山古墳	鳥山上町 2140-1 他				○					中期前方後円墳		1、39
109 亀山古墳	鳥山上町 1509				○					中期帆立貝式古墳		1
110 上遺跡	鳥山上町 1505 他	○		○	○	○	○			古墳平安集落		4、5
111 久保遺跡	鳥山上町 2313 他				○	○	○			集落		23、39
112 寺賀遺跡	鳥山上町 1262 他				○	○	○			古墳集落		1
113 鳥山寺中遺跡	鳥山上町 1210 他				○	○	○			散布地、集落		
114 中道遺跡	鳥山上町 1039-3 他				○					散布地		
115 上泉開口遺跡	鳥山中町 1531 他				○					集落		
116 大光寺跡	鳥山上町 1610 他							○		社寺		
117 鳥山宿屋敷遺跡	鳥山上町 1603 他	○								散布地、古墳		
118 鶴着遺跡	鳥山中町 945-1 他				○					散布地		
119 鳥山下遺跡	鳥山中町 280 他				○					集落		6、71
120 鳥ヶ谷口遺跡	鳥山中町 770-1 他				○					散布地		
121 鳥嶽神社古墳	鳥山中町 835 他				○				○	前方後円墳、墓その 他の		1、18
122 鳥山城	鳥山中町							○		城館	鳥山環濠遺構群、 鳥山氏	48

遺跡名	所在地	プレ	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	種別・性格	備考	文献
123 鳥山館	鳥山中町						○			城館	鳥山環濠造構削、鳥山氏	48
124 鳥山屋敷	鳥山下町 706-1 他						○	○	○	城館、近世官所	鳥山環濠造構削、鳥山氏	48
125 前沖遺跡	鳥山下町 480 他	○		○	○	○	○	○		古墳～平安集落、B下水田、城館		14, 71, 73
126 三枚橋南遺跡	鳥山町	○								集落		
127 三枚橋南古墳群	大島町 122-1 他				○					古墳		
128 中瀬遺跡	鶴生田町 520 他			○						集落		
129 鶴生田口遺跡	鶴生田町 1971-60 他	○	○							散布地		
130 間々下道路	鶴生田町 181 他	○	○							集落		
131 高太郎 II 遺跡	長手町 1979-11			○	○					生産遺跡		30, 39
132 金ヶ崎跡	金山山頂全城他						○			城館		8, 9, 10, 13, 30, 43
133 長手口古墳群	鶴生田町 1938-1 他			○						古墳		
134 大正田古墳群及び上師森包廻地	長手町 1752 他		○							散布地、古墳		
135 丸之塚古墳群	長手町 1744 他		○							古墳		
136 大正口道路	大島町 1738 他	○	○							散布地		
137 年保遺跡	大島町 567 他	○	○							散布地、集落		71
138 新野古墳群	新野町 1305-1 他	○	○							古墳		6, 42
139 下原遺跡	駿河町 100 他									散布地		
140 親翁免道路(駿屋義郎 遺跡)	駿河町 168 他						○			城館	駿屋館	48
141 間々下道路	駿河町 243 他			○						散布地		
142 駿屋中原遺跡	駿河町 204-2 他					○				散布地	新野駿屋遺跡群	37
143 約堂遺跡	城西町 354 他	○		○	○	○	○			縄文古墳平安集落、社寺	約堂寺。推定 東山道武藏路、新野駿屋遺跡群	18, 37, 42
144 駿屋古墳群	駿河町 398 他			○						古墳、墓その他	オカマン山古墳、 新野駿屋遺跡群	1, 2, 3, 7, 17, 18, 37, 47
145 岩原遺跡	城西町 398 他	○	○	○	○	○	○	○	○	縄文古墳平安集落、 古墳、墓その他	推定東山道武藏路、 新野駿屋遺跡群	7, 17, 29, 37, 41, 42, 47
146 臨深沢町遺跡	駿河町 1072 他									集落、方形周溝墓		19, 39, 44
147 推定東山道駿路武藏 路	下田浜町 123-1 他			○	○					その他(道路)		37
148 推定東山道駿路牛堀、 矢ノ原ルート	寺井町 417 他				○					その他(道路)		6, 27, 88, 92, 93, 96
149 推定東山道駿路下新 田山一ト	寺井町 672-1 他				○	○				その他(道路)		27, 76, 84, 87, 93, 96
150 推定東山道駿路 南ルート	東今泉町 591 他					○				その他(道路)		51, 55

文献一覧

- 1 太田市 1996 「太田市史通史編 原始古代」
- 2 太田市教育委員会 1996 「今泉口八幡山古墳發掘調査報告書」
- 3 太田市教育委員会 1997 「今泉口八幡山古墳」
- 4 太田市教育委員会 2008 「太田市内道路3」
- 5 太田市教育委員会 2009 「太田市内道路4」
- 6 太田市教育委員会 2010 「太田市内道路5」
- 7 太田市教育委員会 1973 「オカマン山古墳・岩原道路E地点緊急発掘調査報告書」
- 8 太田市教育委員会 1999 「金山城跡・月ノ池」
- 9 太田市教育委員会 2001 「史跡金山城跡環境整備報告書整備編」
- 10 太田市教育委員会 2001 「史跡金山城跡環境整備報告書発掘調査編」
- 11 太田市教育委員会 1999 「唐橋道路発掘調査報告書」
- 12 太田市教育委員会 1985 「市内道路Ⅱ：舞台D道路・成塙船荷神社古墳・間之原遺跡」
- 13 太田市教育委員会 1993 「市内道路Ⅳ」
- 14 太田市教育委員会 1994 「市内道路Ⅴ」
- 15 太田市教育委員会 1995 「市内道路Ⅵ(唐橋道路・天神山古墳外側、原店道路、東矢島遺跡群、向矢部道路、戸門口道路、石田川遺跡)」
- 16 太田市教育委員会 2000 「市内道路Ⅷ(東矢島古墳群(割地山古墳)、朝子古墳・成塙向山古墳群・丸山體巻道路)」
- 17 太田市教育委員会 2001 「市内道路Ⅸ(新ヶ谷戸遺跡(第Ⅰ次)・新野駿屋遺跡群(第3次)・戸門口道路(第Ⅲ次))」
- 18 太田市教育委員会 2002 「市内道路Ⅹ」
- 19 太田市教育委員会 2003 「市内道路Ⅺ(本陣跡・駿屋深町道路・下田浜道路・茂茂跡)」
- 20 太田市教育委員会 2008 「天良7堂道路」
- 21 太田市教育委員会 2010 「天良7堂道路2」
- 22 太田市教育委員会 2012 「天良7堂道路3」
- 23 太田市教育委員会 2011 「太田市内道路6」

第2章 周辺の環境

- 24 太田市教育委員会 2012「太田市内道路7」
 25 太田市教育委員会 2014「太田市内道路9」
 26 太田市教育委員会 2016「太田市内道路11」
 27 太田市教育委員会 2018「太田市内道路12」
 28 太田市教育委員会 1973「群馬県太田市町内道路発掘調査報告書」
 29 太田市教育委員会 1985「堂原道路発掘調査概報」
 30 太田市教育委員会 2002「長手谷道路発掘調査報告書」
 31 太田市教育委員会 1990「成塙住宅跡地道路Ⅰ」
 32 太田市教育委員会 1991「成塙住宅跡地道路Ⅱ・1」
 33 太田市教育委員会 1991「成塙住宅跡地道路Ⅱ・2」
 34 太田市教育委員会 1993「成塙住宅跡地道路Ⅲ・3」
 35 太田市教育委員会 1993「成塙住宅跡地道路Ⅳ・4」
 36 太田市教育委員会 1993「成塙住宅跡地道路 分析編」
 37 太田市教育委員会 2010「新野脇跡跡群 発掘調査概報」
 38 太田市教育委員会 1986「西長岡横塚跡群 発掘調査概報」
 39 太田市教育委員会 1991「埋蔵文化財発掘調査年報1」
 40 太田市教育委員会 1992「埋蔵文化財発掘調査年報2」
 41 太田市教育委員会 1993「埋蔵文化財発掘調査年報3」
 42 太田市教育委員会 1994「埋蔵文化財発掘調査年報4」
 43 太田市教育委員会 1996「埋蔵文化財発掘調査年報6」
 44 太田市教育委員会 1990「駒屋深町跡群 発掘調査概報」
 45 駒馬県 1986「群馬県史 資料編2」
 46 駒馬県教育委員会 1974「太田市八幡道跡発掘調査報告」
 47 駒馬県教育委員会 1972「オクマン山古墳原跡E地点緊急発
掘調査概報」
 48 駒馬県教育委員会 1988「群馬県の世界遺産」
 49 財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2007「石橋地蔵久保遺跡」
 50 財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990「太田市八幡道跡」
 51 財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2010「大道東道路(2)
・弥生時代以降編」-1-
 52 財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2008「大蔵跡跡」
 53 財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2012「笠松道路・天良七
道跡・上相道路」
 54 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2013「笠松道路・堀
越道跡・天良七道跡」
 55 財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2010「鹿嶋浦遺跡2」
 56 財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2008「上強(ト)道跡跡」
 57 財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2009「上強(ト)道跡(1)」
 58 財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2010「上強(ト)道跡(2)」
 59 財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2008「坂道跡跡群」
 60 財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988「成塙石橋遺跡1」
 61 財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1991「成塙石橋遺跡2」
 62 財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2010「成塙道路跡」
 63 財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2008「成塙向山古墳群」
 64 財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2010「西長岡道路跡(1)」
 65 財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2010「西長岡道路跡(2)」
 66 財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1996「西長岡南道路・管
塩西向道路・成塙永昌寺道路・成塙石橋道路跡」
 67 財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1997「西長岡南道路II・
III」
 68 財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2006「西野原道路(1)
(2)」
 69 財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2008「西野原道路(3)
(4)・鷹谷門道路」
 70 財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2009「西野原道路(5)
(7)」
 71 財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2003「年保道路・烏山下
道路」
 72 財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2010「秩原道路」
 73 財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2004「前冲道路(2)」
 74 財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2009「峯山道路I・旧石
器・縄文時代編」-1-
 75 財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2010「峯山道路II・古墳
時代以降編」-1-
 76 山武考古学研究所 1992「群馬県新田町下新田道路発掘調査報告
書」

第3章 確認された遺構と遺物

第1節 調査区の概要と基本土層

第1項 調査区の概要

太田市の中央付近、石橋町と寺井町にまたがる本調査区は、石橋地蔵久保遺跡の中央やや東寄りに位置している。本調査区は、平成15年から平成18年にかけて発掘調査が行われ、平成20年に刊行された発掘調査報告書で報告された調査区（以下、平成調査区）の西に隣接している。また西北に0.2kmほどの地点には寺井廢寺、北東に0.5kmほどの地点には上野国新田郡家が位置している。

今回の発掘調査は主要地方道足利伊勢崎線の歩道整備事業に伴うものであり、調査区の全長は200mを越えているが、調査区の幅は1mにも満たない狭小な範囲が調査対象となっている。更に、調査区周辺は東武桐生線の治良門橋駅から200m程度の住宅地であり、生活道路である足利伊勢崎線に面する建物も多く、玄関・通用口や上下水道の配管など、日常生活に支障をきたす場所も至つて多い土地である。調査工程との兼ね合いから、表土掘削を行い地下の状況を確認できた部分は全調査区の1/3に満たない程度となっている。

調査区東半の石橋町地内を1区、調査区西半の寺井町地内を2区として発掘調査が行われ、竪穴建物7棟、溝4条、土坑6基、ピット3基が確認されている。このうち1区から竪穴建物5棟、溝3条、土坑4基、ピット2基、2区からは竪穴建物2棟、溝1条、土坑2基、ピット1基が検出されている。発掘調査可能であった場所が調査区内に不均等に分布しているので、あくまでも傾向程度の印象ではあるが、調査区中央付近に遺構が集中しているように見受けられる。

調査区の幅が狭く、カマドも検出されていないので本来の主軸方位は未確認ではあるが、竪穴建物7棟の東西軸の軸方向はいずれも西下がりとなっており、1号溝の走行方位と概ね共通している。なお余談ではあるが、1号溝は現用道路にほぼ並走しているが、平成調査区から検出された現用道路にほぼ並行する溝（1号溝）は、そ

の西端が西南西から西南方向へ流れを変えていることから、今回検出された溝との関連は薄いと推測される。また溝の走行方向としてのみであれば平成調査区の2号溝との関連がうかがえるのであるが、遺構の帰属時期と埋没土の相違から別遺構と予想される。

第2項 基本土層

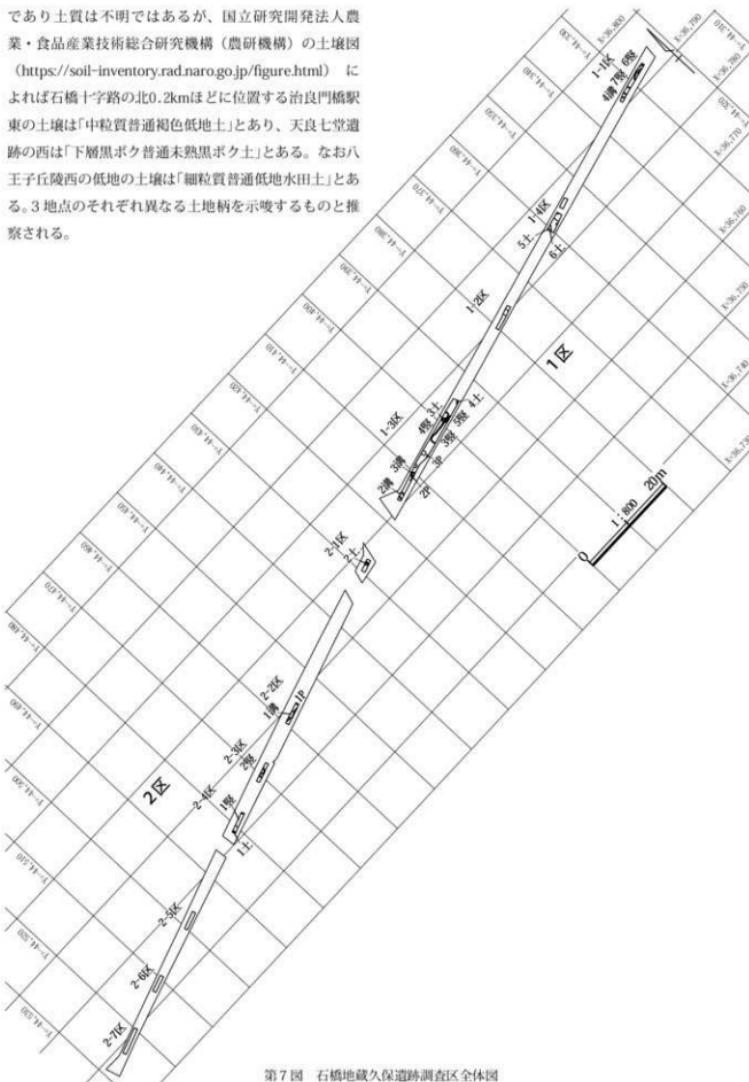
本調査区の基本土層として、2-3区の西壁が取り上げられており、その概要は上層から表土層、黒褐色砂質土層、漸移層、ローム層、礫層となっている。検出された遺構の多くはⅢ層の漸移層を地山としているが、その中でⅡ層の黒褐色砂質土を埋没土に確認できる遺構は多くない。多くの遺構はローム粒を含んだ、砂質でない黒褐色土を埋没土としている。なおⅡ層の土を埋没土を持つ遺構は、その下位にロームブロックを含んだ暗褐色土ないし黒褐色土を埋没土とする傾向がある。Ⅱ層の土を埋没土に含まずに、ロームブロックを含んだ埋没土を持つ遺構は1号竪穴建物と2号竪穴建物、3号竪穴建物、6号竪穴建物であり、いずれもロームブロックを含む埋没土が床下に認められる。なお6号竪穴建物はⅡ層を地山としている。

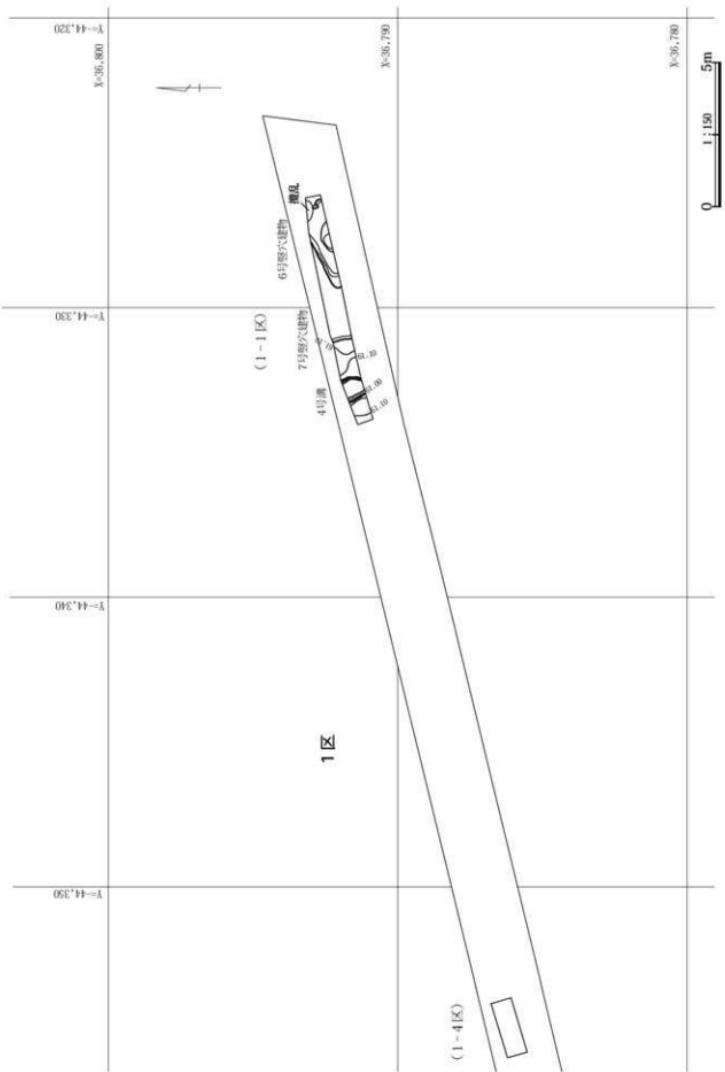
平成調査区4区（石橋十字路北）の基本土層を基本土層図（第14図）に付記した。今回と平成調査区の基本土層を比較するとその相違は大きく、両者はそれぞれ異なる歴史を示すものである。その際立った差異はローム層の有様であろうか。平成調査区の基本土層の上層側は灰色系の埋没土で構成されており、この構成からは大間々扇状地端低地の地質断面図が想起される。いずれにしても、平成調査区は八王子丘陵の西麓沿いに位置する低地に近い大間々扇状地の東扇側寄りに位置し、今回の調査区は平成調査区よりも東扇側から遠い場所に位置することに由来すると推測される。なお平成3年度に調査された1-4区はローム漸移層の上位から灰褐色の埋没土が確認されており、石橋地蔵久保遺跡は場所により土層層序が相違している可能性を示唆するものと推察される。

因みに調査区を含みその周辺の土壤データは未記載

第3章 確認された遺構と遺物

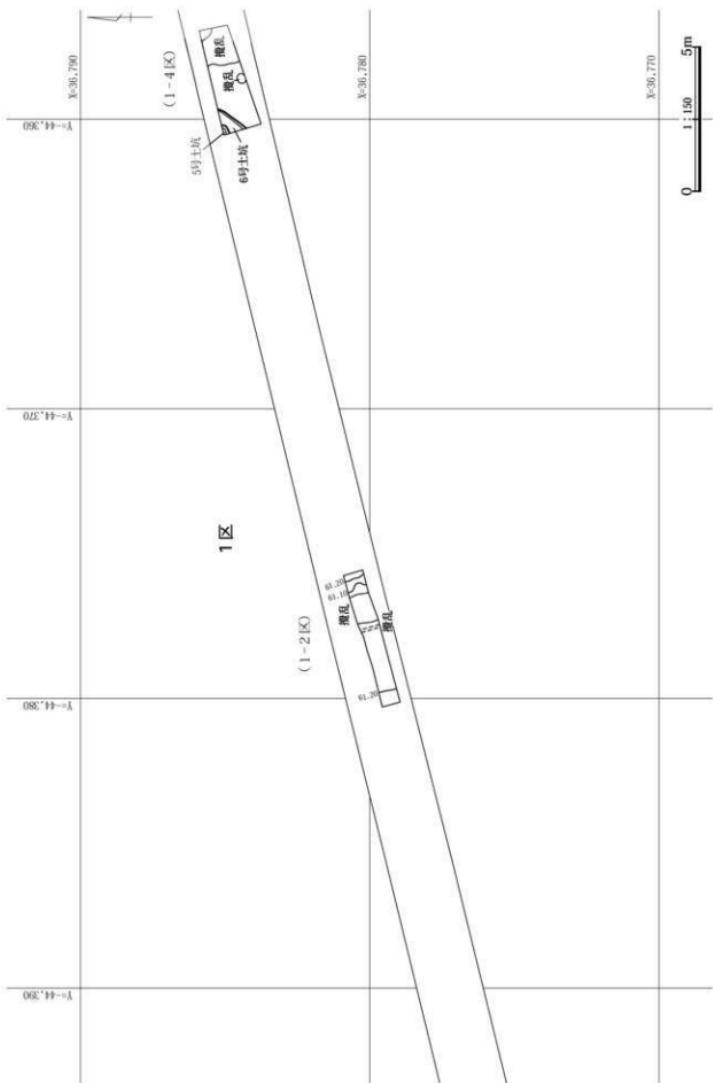
であり土質は不明ではあるが、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）の土壤図 (<https://soil-inventory.ran.naro.go.jp/figure.html>) によれば石橋十字路の北0.2kmほどに位置する治良門橋駅東の土壤は「中粒質普通褐色低地土」とあり、天良七堂遺跡の西は「下層黒ボク普通未熟黑ボク土」とある。なお八王子丘陵西の低地の土壤は「細粒質普通低地水田土」とある。3地点のそれぞれ異なる土地柄を示唆するものと推察される。



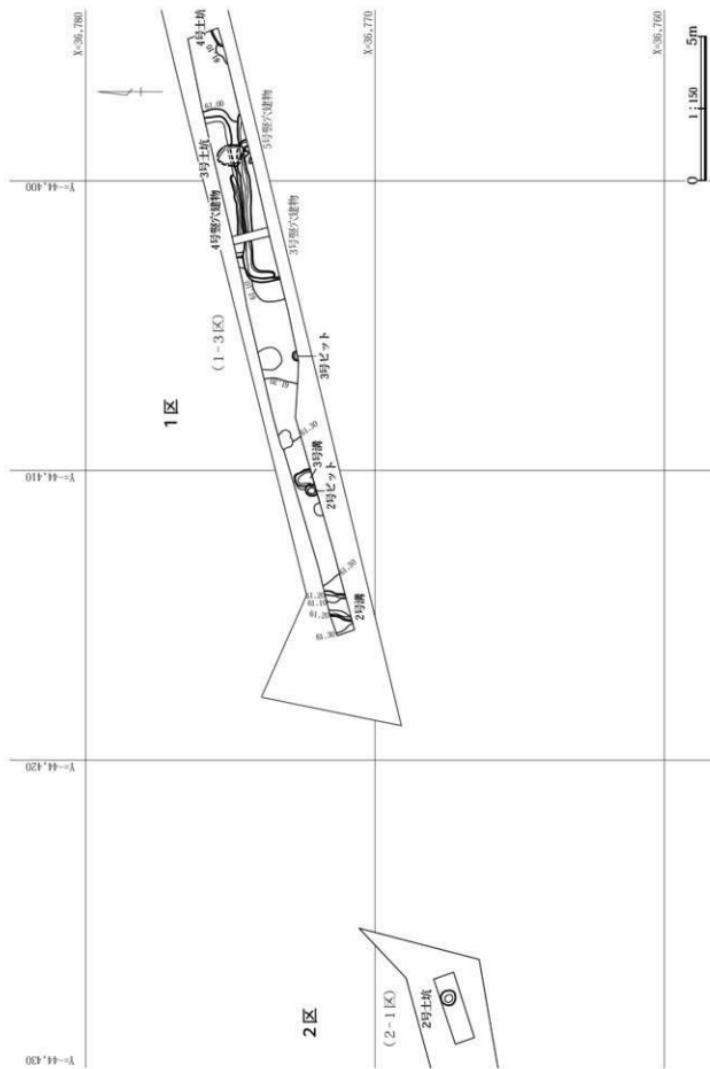


第8図 椰査区別図1(東端)

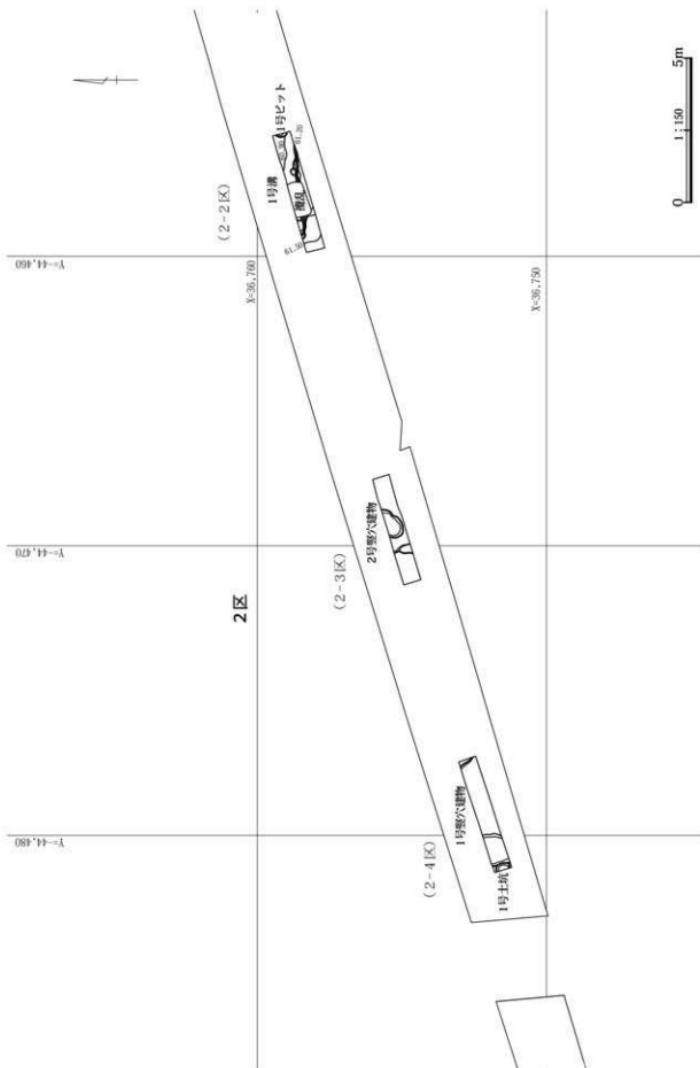
第3章 確認された遺構と遺物



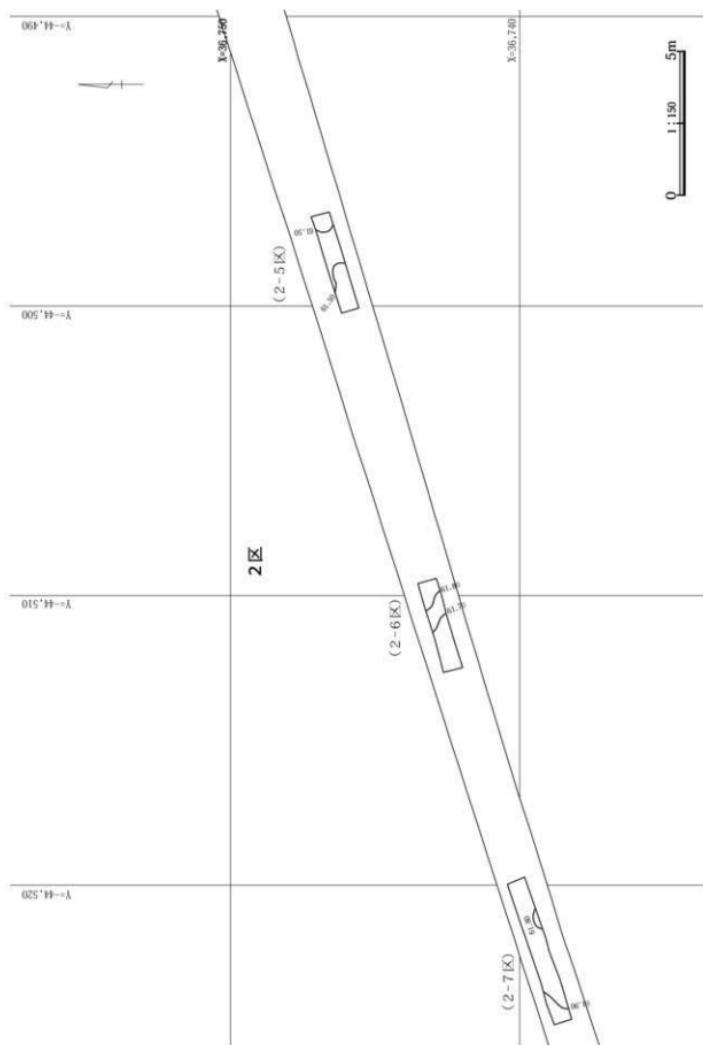
第9図 検査区別図2(中央東)



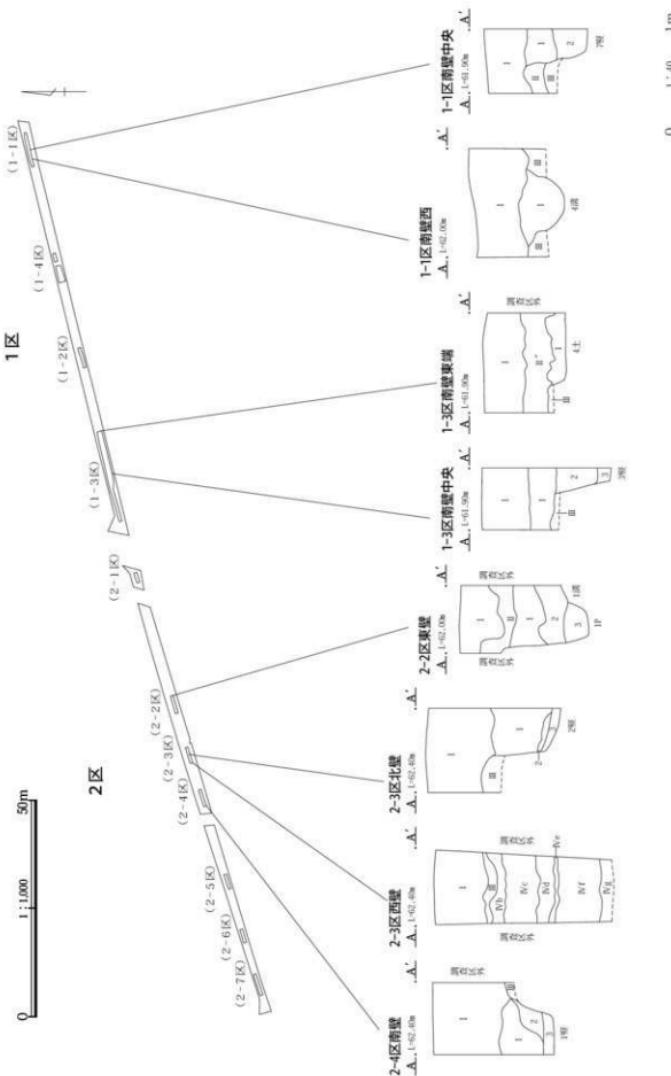
第10図 椰査区別図3(中央)



第111図 調査区割図 4 (中央西)



第12図 椰査区別図5(西端)



第13図 屋内構造図 1

2-4区南壁		1-1区南壁西		1-2区南壁		1-3区南壁中央		1-3区南壁東端		2-3区北壁	
1 表土	I 表土	I 表土	I 表土	I 表土	I 表土	I 表土	I 表土	II 黒褐色粘質土 (0TR3/2)	II 黒褐色粘質土 (0TR3/2)	I 表土	III 黒褐色土 (0TR4/6) 混移層
1 前褐色土 (0TR3/3) 地上粒、炭化物粒見られる。しまりあり、粘性ややあり。	II 前褐色土 (0TR3/2) 地上粒、炭化物粒見られる。しまりあり、粘性ややあり。	I 黒褐色土 (0TR3/2) 地上粒、炭化物粒見られる。しまりあり、粘性ややあり。	II 前褐色土 (0TR3/2) 地上粒、炭化物粒見られる。しまりあり、粘性ややあり。	I 黒褐色土 (0TR3/2) 地上粒、炭化物粒見られる。しまりあり、粘性ややあり。	II 黒褐色土 (0TR3/2) 地上粒、炭化物粒見られる。しまりあり、粘性ややあり。	I 黒褐色土 (0TR3/2) 地上粒、炭化物粒見られる。しまりあり、粘性ややあり。	II 黒褐色土 (0TR3/2) 地上粒、炭化物粒見られる。しまりあり、粘性ややあり。	II 黒褐色土 (0TR3/2) 地上粒、炭化物粒見られる。しまりあり、粘性ややあり。	II 黒褐色土 (0TR3/2) 地上粒、炭化物粒見られる。しまりあり、粘性ややあり。	III 黒褐色土 (0TR3/2) 地上粒、炭化物粒見られる。しまりあり、粘性ややあり。	
2 褐色土 (0TR4/4) φ 1mローブ、含水率1%合む。地上粒、炭化物粒見られる。しまりよく、粘性ややあり。	2 褐色土 (0TR4/4) φ 1mローブ、含水率1%合む。地上粒、炭化物粒見られる。しまりよく、粘性ややあり。	2 褐色土 (0TR4/4) φ 1mローブ、炭化物粒各1%合む。しまりあり、粘性ややあり。	2 褐色土 (0TR4/4) φ 1mローブ、炭化物粒各1%合む。しまりあり、粘性ややあり。	2 褐色土 (0TR4/4) φ 1mローブ、炭化物粒各1%合む。しまりあり、粘性ややあり。	2 褐色土 (0TR4/4) φ 1mローブ、炭化物粒各1%合む。しまりあり、粘性ややあり。	III 黒褐色土 (0TR4/6) 混移層					
3 褐色土 (0TR4/4) φ 1mローブ、2.5ローブ、 2.5%含む。粘性ややあり。	3 褐色土 (0TR4/4) φ 1mローブ、2.5ローブ、 2.5%含む。粘性ややあり。	3 褐色土 (0TR3/3) しまり、粘性あり。	3 褐色土 (0TR3/3) しまり、粘性あり。	3 褐色土 (0TR3/3) しまり、粘性あり。	3 褐色土 (0TR3/3) しまり、粘性あり。	III 黑褐色土 (0TR4/6) 混移層					
III 黑褐色土 (0TR4/6) 混移層	III 黑褐色土 (0TR4/6) 混移層	IV b As-OP 合成シルコローブ	IV b As-OP 合成アドローブ	IV d As-AP	IV e 黑褐色粘質土 (0TR7/1) AT相当	IV f 黑褐色土 (0TR2/3) ローム粒、炭化物 2 黑褐色土 (0TR2/3) φ 1~5mローブ、 粘性やや含む。炭化物粒、地表見られる。 3 黑褐色土 (0TR3/2) に5%含む炭化物土 III 黑褐色土 (0TR4/6) 混移層	IV g 黑褐色土 (0TR3/2) φ 1~5mローブ、 粘性やや含む。炭化物粒、地表見られる。 II 黑褐色土 (0TR3/2) 地下50cm III 黑褐色土 (0TR4/6) 混移層	V 泥炭	VII 黑褐色土 (0TR3/2) 地下50cm VIII 黑褐色土 (0TR3/2) 地下50cm IX 黑褐色土 (0TR3/2) 地下50cm	X 黑褐色土 (0TR4/6) 混移層	
III 黑褐色粘質土 (0TR7/1) 粘分混層	III 黑褐色粘質土 (0TR7/1) 粘分混層	IV b As-OP 合成シルコローブ	IV b As-OP 合成アドローブ	IV d As-AP	IV e 黑褐色粘質土 (0TR7/1) AT相当	IV f 黑褐色土 (0TR2/3) ローム粒、炭化物 2 黑褐色土 (0TR2/3) φ 1~5mローブ、 粘性やや含む。炭化物粒、地表見られる。 3 黑褐色土 (0TR3/2) に5%含む炭化物土 III 黑褐色土 (0TR4/6) 混移層	IV g 黑褐色土 (0TR3/2) φ 1~5mローブ、 粘性やや含む。炭化物粒、地表見られる。 II 黑褐色土 (0TR3/2) 地下50cm III 黑褐色土 (0TR4/6) 混移層	V 泥炭	VII 黑褐色土 (0TR3/2) 地下50cm VIII 黑褐色土 (0TR3/2) 地下50cm IX 黑褐色土 (0TR3/2) 地下50cm	X 黑褐色土 (0TR4/6) 混移層	
III 黑褐色粘質土 (0TR7/1) 粘分混層	III 黑褐色粘質土 (0TR7/1) 粘分混層	IV b As-OP 合成シルコローブ	IV b As-OP 合成アドローブ	IV d As-AP	IV e 黑褐色粘質土 (0TR7/1) AT相当	IV f 黑褐色土 (0TR2/3) ローム粒、炭化物 2 黑褐色土 (0TR2/3) φ 1~5mローブ、 粘性やや含む。炭化物粒、地表見られる。 3 黑褐色土 (0TR3/2) に5%含む炭化物土 III 黑褐色土 (0TR4/6) 混移層	IV g 黑褐色土 (0TR3/2) φ 1~5mローブ、 粘性やや含む。炭化物粒、地表見られる。 II 黑褐色土 (0TR3/2) 地下50cm III 黑褐色土 (0TR4/6) 混移層	V 泥炭	VII 黑褐色土 (0TR3/2) 地下50cm VIII 黑褐色土 (0TR3/2) 地下50cm IX 黑褐色土 (0TR3/2) 地下50cm	X 黑褐色土 (0TR4/6) 混移層	
III 黑褐色粘質土 (0TR7/1) 粘分混層	III 黑褐色粘質土 (0TR7/1) 粘分混層	IV b As-OP 合成シルコローブ	IV b As-OP 合成アドローブ	IV d As-AP	IV e 黑褐色粘質土 (0TR7/1) AT相当	IV f 黑褐色土 (0TR2/3) ローム粒、炭化物 2 黑褐色土 (0TR2/3) φ 1~5mローブ、 粘性やや含む。炭化物粒、地表見られる。 3 黑褐色土 (0TR3/2) に5%含む炭化物土 III 黑褐色土 (0TR4/6) 混移層	IV g 黑褐色土 (0TR3/2) φ 1~5mローブ、 粘性やや含む。炭化物粒、地表見られる。 II 黑褐色土 (0TR3/2) 地下50cm III 黑褐色土 (0TR4/6) 混移層	V 泥炭	VII 黑褐色土 (0TR3/2) 地下50cm VIII 黑褐色土 (0TR3/2) 地下50cm IX 黑褐色土 (0TR3/2) 地下50cm	X 黑褐色土 (0TR4/6) 混移層	

平成18年度調査石垣島久保連4区域基本土層

- 表土：地表から50cm～30cm、泥炭層
 I 層：厚さ約10cm、灰褐色土、泥炭層から約8cmまで
 II 層：厚さ約30cm、灰褐色土、泥炭層
 III 層：厚さ約10cm、灰褐色土、泥炭層をブロック状に含む
 IV 層：厚さ約10cm、若干泥炭がかった灰褐色土
 V 層：厚さ約5cm、砂礫混じる褐色土
 VI 層：厚さ約15cm、灰褐色土
 VII 層：厚さ約2cm、灰褐色土
 VIII 层：厚さ約2cm、灰褐色土
 IX 層：厚さ15cm以上、最大幅14.5cmの円筒埴装により灰褐色土被覆

第2節 確認された遺構

第1項 遺構の概要

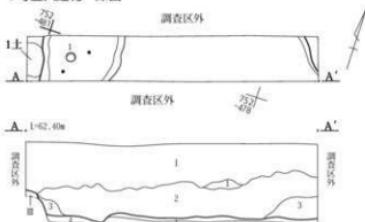
東側の調査区である1区から、竪穴建物5棟、溝3条、土坑4基、ピット2基が確認され、西側の調査区である2区から、竪穴建物2棟、溝1条、土坑2基、ピット1基が確認されている。いずれも表土直下、ないしはその1層下程度からの検出であり、表層の擾乱が及ぶ範囲の遺構である。今回の発掘調査範囲は面的な広がりに欠け、また発掘調査時点から概ね同時代の遺構と推測されていたこともあり、あえて区ごとや時代ごとに分けず、遺構ごとに調査成果を記載することとした。

第2項 確認された遺構

1 竪穴建物

7棟の竪穴建物は相互に間隔を置く3群として検出されている。確認された遺構は重複する傾向が強く、調査区の東端から重複して2棟、調査区の中央東寄りに重複した3棟、調査区西半の中ほどから個別に2棟が検出されている。すべての遺構がトレーンチ幅程度の調査区からの検出であり、全体像を明示できる事例にもこと欠くが、

1号竪穴建物 床面



1号竪穴建物 掘り方



発掘調査時の所見によれば、濃密な遺構分布が想定される古代の集落と認識されている。なおカマドは確認されなかったが、遺構の東西方向の軸線が、程度の差はあれ西下がりとなる傾向は7遺構すべてに共通している。

(1) 1号竪穴建物 (第15,26図、PL. 4,9)

位置 X=36,751~36,752、Y=-44,477~-44,482、2-4区に位置する。

形状等 東西両辺を含む部分的な検出であり詳細不明。方形遺構の中ほど部分の検出と思われるが、東西両辺ともに傾きがあり、北辺を上底とする台形が想起される。検出範囲に壁溝は認められないが、西辺側の床面が一段低くなっている。

規模 3.90×(0.60)×0.41m

主軸方位(度) N-87-E

埋没土 壁際のローム粒を含む褐色土の流れ込みの上に、焼土粒、炭化物粒を含む暗褐色土が堆積する。

カマド 不明

掘り方 かたく締まった、ロームブロックを含む褐色土により覆われている。

重複 下位に1号土坑。

遺物 埋没土から土師器杯（1）のほか、図化には至らなかったが、菰編み石様の繩や土師器、須恵器などの破片が出土している。

所見 本遺構の帰属年代は、出土遺物から奈良時代（8世紀中頃）以降に比定される。1号土坑よりも新しい。

(2) 2号竪穴建物 (第16,26図、PL. 4,9)

位置 X=36,754~36,757、Y=-44,467~-44,471、2-3区に位置する。

形状等 西辺が検出されたのみであり詳細不明。壁溝は

- 1号竪穴建物
 - 1 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒、焼土粒見られる。しまりよく、粘性ややあり。
 - 2 暗褐色土 (10YR3/3) 焼土粒、炭化物粒見られる。しまりよく、粘性ややあり。
 - 3 褐色土 (10YR4/4) φ 1cmローム粒1%含む。焼土粒、炭化物粒見られる。しまりよく、粘性ややあり。
 - 4 褐色土 (10YR4/4) φ 1cmロームブロック20%含む。かたくし
まり粘性ややあり。

0 1:60 2m

第15図 1号竪穴建物

第2節 確認された遺構

認められないが、壁面は垂直の部位と外傾する部位の二種が認められる。西壁寄りの位置に、深さ10~20cmの貯蔵穴とされる浅い掘り込みが確認されている。

規模 $(2.83) \times (0.60) \times 0.68m$

主軸方位(度) N-72-E

埋没土 流れ込みと思われるローム粒を含む暗褐色土の上に、ローム粒、炭化物粒、焼土粒を含む暗褐色土が堆積する。

カマド 不明

掘り方 固く締まったロームブロックを含む暗褐色土による貼り床が確認されている。

重複 なし

遺物 貯蔵穴とされる浅い掘り込みの直上、床上3cmの位置から須恵器蓋(2)が出土している。

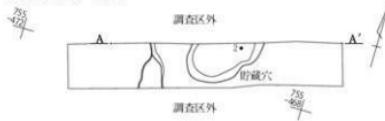
所見 本遺構の輪層年代は、埋没土の状況から奈良時代以降に比定される。なお出土遺物が検出された平面位置は貯蔵穴とされた掘り込みの範囲内であり、流れ込みと思われる3層内からの出土と考えられるため、埋没時に流入した可能性も高い。

(3) 3~5号竪穴建物(第17,26図、PL. 4,5,9)

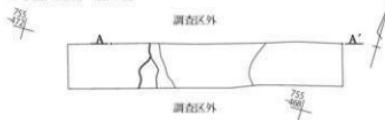
a 3号竪穴建物

位置 X=36,773~36,775、Y=-44,398~-44,404、1~3区東側に位置する。

2号竪穴建物 床面



2号竪穴建物 掘り方



形状等 方形遺構の東北隅と西北隅を含む北辺が確認された。深さ5~17cmの溝が壁際に存在するが、西辺に壁溝の途切れる場所が確認されている。

規模 $4.90 \times (1.08) \times 0.43m$

主軸方位(度) N-86-E

埋没土 ローム粒、炭化物粒、焼土粒を含む黒褐色土に覆われる。

カマド 不明

掘り方 固く締まった、黒褐色土と鈍い黄褐色土の混土による貼り床が確認されている。

重複 上位に3号土坑、下位に4・5号竪穴建物。

遺物 埋没土から土師器杯(3)や須恵器杯(4,5)、須恵器蓋(6)が出土している。この他岡化には至らなかったが、床面から土師器片が出土しており、掘り方からは土師器、須恵器片が出土している。また埋没土からは土師器、須恵器、灰釉陶器の破片の他に瓦片も出土している。

所見 本遺構の輪層年代は、出土遺物から平安時代(9世紀後半)に比定される。3号土坑に先行し、4・5号竪穴建物より新しい。

備考 掘り方出土の縄文土器片は遺構外遺物とした。

b 4号竪穴建物

位置 X=36,774~36,776、Y=-44,397~-44,403、1~3区東側に位置する。

形状等 方形遺構の南辺が検出されたと推測される。南辺の西半には浅い壁溝が存在する。

規模 $4.76 \times (0.79) \times 0.70m$

主軸方位(度) N-80-E

埋没土 ロームブロックを含む暗褐色土に覆われている。

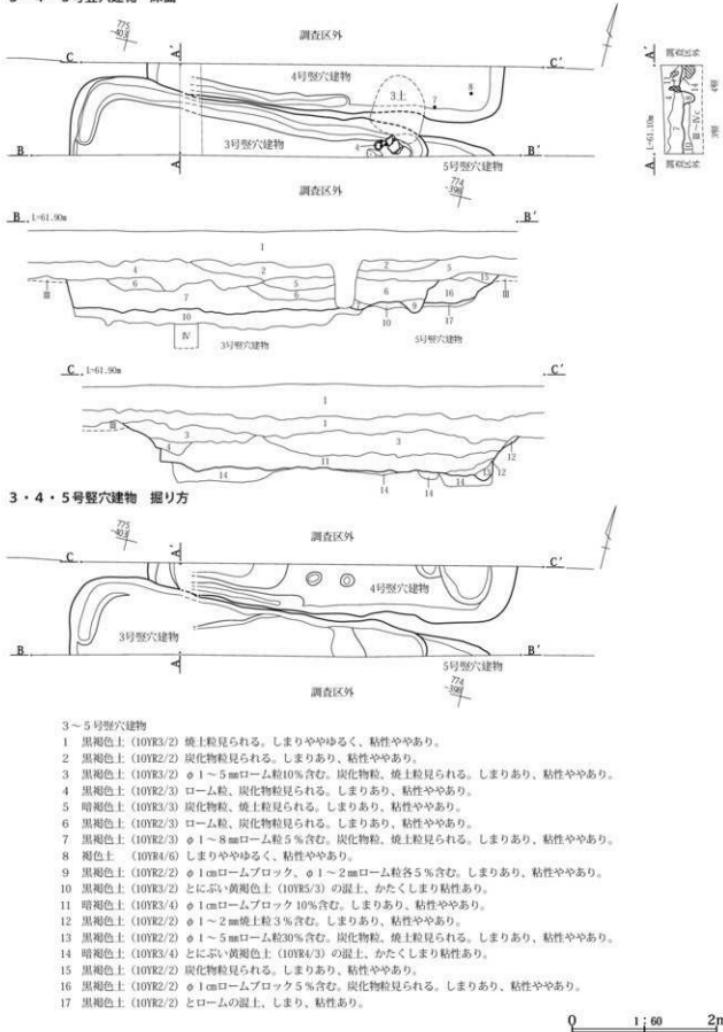
2号竪穴建物

- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物粒見られる。しまりあり、粘性ややあり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/4) $\phi 1 \sim 2m$ ローム粒5%含む。炭化物粒・焼土粒見られる。しまりあり、粘性ややあり。
- 3 暗褐色土 (10YR3/4) $\phi 1 \sim 5m$ ローム粒10%含む。しまりあり、粘性ややあり。
- 4 暗褐色土 (10YR3/4) $\phi 1 \sim 2m$ ロームブロック20%含む。かたくしまり粘性ややあり。
- 5 暗褐色土 (10YR3/4) $\phi 1 \sim 2m$ ロームブロック30%含む。かたくしまり粘性ややあり。

0 1:60 2m

第16図 2号竪穴建物

3・4・5号竪穴建物 床面



第17図 3～5号竪穴建物

第2節 確認された遺構

カマド 不明

掘り方 深さ6~15cm程度、大小二種の掘り込み数か所が確認されている。掘り込みを含め、固く締まった暗褐色土と鈍い黄褐色土の混土で床面が構築されている。

重複 上位に3号土坑、3号竪穴建物。

遺物 床面から須恵器杯(7、8)が出土している。このほか陶化には至らなかったが、掘り方からは土師器片と須恵器片が出土しており、埋没土からも土師器片と須恵器片が出土している。

所見 本遺構の帰属年代は、出土遺物から平安時代(9世紀中頃)に比定される。3号土坑と3号竪穴建物に先行する。

c 5号竪穴建物

位置 X=36,774~36,775、Y=-44,397~-44,399、I-3区東側に位置する。

形状等 東北隅寄りと思われる北辺の一部のみの検出であり詳細不明。

規模 (1.05)×(0.30)×0.39m

主軸方位(度) N-78-E

埋没土 ロームブロックと炭化物粒を含む黒褐色土に覆われる。

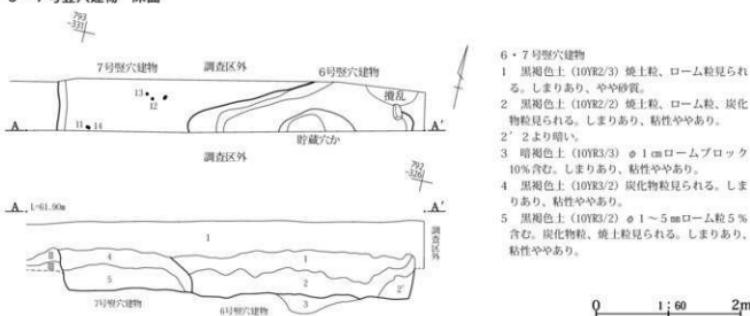
カマド 不明

掘り方 黒褐色土とロームの混土による貼り床が確認されている。

重複 上位に3号竪穴建物。

遺物 なし

6・7号竪穴建物 床面



第18図 6・7号竪穴建物

第3章 確認された遺構と遺物

れる。7号竪穴建物より新しい。

備考 掘査した土師器杯は複重遺構との前後関係から、遺構廃棄後に流れ込んだ遺物と推察される。

b 7号竪穴建物

位置 X=36,791~36,794, Y=-44,327~-44,332, 1-1 区東側に位置する。

形状等 西辺の一部が検出されたと推測されるが詳細不詳。壁はほぼ直角に掘られている。

規模 (3.53)×(0.73)×0.56m

主軸方位(度) N-78-E

第2表 竪穴建物一覧

遺構名	検出位置	規模(m)	主軸方位(度)	重複遺構
1号竪穴建物	2-4区 X=36,751~36,752 Y=-44,477~-44,482	3.90 × (0.60) × 0.41	N-87-E	下位に1号土坑
2号竪穴建物	2-3区 X=36,754~36,757 Y=-44,467~-44,471	(2.83) × (0.60) × 0.68	N-72-E	
3号竪穴建物	1-3区東側 X=36,773~36,775 Y=-44,398~-44,404	4.90 × (1.08) × 0.43	N-86-E	上位に3号土坑、下位に5号竪穴建物
4号竪穴建物	1-3区東側 X=36,774~36,776 Y=-44,397~-44,403	4.96 × (0.79) × 0.70	N-80-E	上位に3号土坑、3号竪穴建物
5号竪穴建物	1-3区東側 X=36,774~36,775 Y=-44,397~-44,399	(1.05) × (0.30) × 0.39	N-78-E	上位に3号竪穴建物
6号竪穴建物	1-1区東側 X=36,791~36,794 Y=-44,326~-44,330	(2.74) × (0.72) × 0.58	N-65-E	下位に7号竪穴建物
7号竪穴建物	1-1区東側 X=36,791~36,794 Y=-44,327~-44,332	(3.53) × (0.73) × 0.56	N-78-E	上位に6号竪穴建物

2 溝

東側調査区に当たる1区から3条、西側調査区に当たる2区から1条の溝が検出されている。検出された遺構に限って言えば、1区の溝は概ね南北に位置し、2区の溝は東西に位置している。

(1) 1号溝 (第19.27図, PL. 6.9)

位置 X=36,758~36,760, Y=-44,455~-44,460, 2-2区に位置する。

形状等 調査区北辺から調査区東辺にかけてやや南下が

埋没土 ローム粒、炭化物粒、焼土粒を含む黒褐色土と炭化物粒を含む黒褐色土に覆われる。

カマド 不明

掘り方 なし

重複 上位に6号竪穴建物。

遺物 床面から土師器杯(11)、埋没土から土師器杯(12)、土師器甕(13)、臼玉(14)が出土している。図化には至らなかったが土師器片や須恵器片が出土している。

所見 本遺構の帰属年代は、出土遺物から奈良時代(8世紀中頃)に比定される。6号竪穴建物に先行する。

りに位置する、溝の南辺が確認された。

規模 (3.74)×(0.67)×0.43m、底面西端標高61.01m、底面東端標高60.87m、標高差0.14mを測る。

走行方位(度) N-84-E

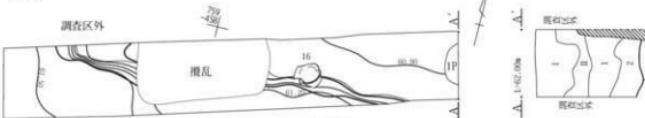
埋没土 焼土粒、炭化粒を含む褐色土に覆われる。

重複 下位に1号ビット。

遺物 南辺中央付近からコの字状口縁の土師器甕(16)、埋没土から土師器杯が(15)出土している。こののはか図化には至らなかったが須恵器片が出土している。

所見 本遺構の帰属年代は、出土遺物から9世紀以降に

1号溝



1号溝

I 表上

II 明褐色砂質土 (10YR3/2)

1 暗褐色土 (10YR3/3) 焼土粒、炭化物粒見られる。しまりあり、粘性ややあり。

2 褐色土 (10YR4/4) φ 1mm以上土粒、炭化物粒各 1% 含む。しまりあり、粘性ややあり。

第19図 1号溝

0 1:40 1m

比定される。1号ビットより新しい。溝西端の形状から、溝南辺はここが終端であり、溝はここから向きを変え北の調査区外に延びると推測される。溝周辺から関連する遺構は検出されていないが、方形区画の西南端の可能性もある。

(2) 2号溝 (第20図、PL. 6)

位置 X=36,770～36,772, Y=-44,414～-44,416, 1-3区西端に位置する。

形状等 北辺から南辺に至る溝で、底部断面は緩やかな弧を描き、両壁は外傾している。

規模 (0.98) × 0.83 × 0.24m、底面北端標高61.10m、底面南端標高61.03m、標高差0.07mを測る。

走行方位(度) N-7-E

埋没土 小礫とローム粒を含む黒褐色土に覆われる。

重複 なし

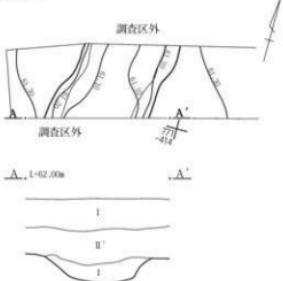
遺物 図化には至らなかったが、埋没土から土師器片が出土している。

所見 本遺構の帰属年代は不明である。

(3) 3号溝 (第20,27図、PL. 6,9)

位置 X=36,772～36,773, Y=-44,409～-44,411, 1-3

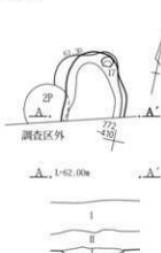
2号溝



2号溝

- I 表土
- II' 埋褐色砂質土 (10YR3/2) 小礫混ざる。
- I 黒褐色土 (10YR3/2) φ 1 ~ 0.5cm小礫 5 % 含む。ローム粒見られる。しまりあり、粘性ややあり。

3号溝



3号溝

- I 表土
- II 埋褐色砂質土 (10YR3/2)
- I 黒褐色土 (10YR3/2) φ 1 cmロームブロック 20 % 含む。しまりあり、粘性ややあり。

0 1:40 1m

第20図 2号溝、3号溝

第3章 確認された遺構と遺物

底面北端標高60.85m、標高差0.13mを測る。

走行方位（度） N-18-W

埋没土 炭化物粒を含む黒褐色土に覆われる。

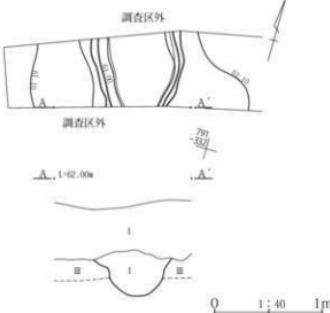
重複 なし

遺物 埋没土から内面研磨された土師器杯（18）と図化には至らなかったが砥石片が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から8世紀以降に比定される。

4号溝
I 表土
II 黒褐色土（10YR2/3）炭化物粒見られる。しまりあり。
III 褐色土（10YR4/6）漸移層

4号溝



第21図 4号溝

第3表 溝一覧

遺構名	検出位置	規模（m）	主軸方位（度）	標高差（m）	重複遺構
1号溝	2-2区 X=36,758～36,760, Y=-44,455～-44,460	(3.74) × (0.67) × 0.43	N-84-E	西 0.14	下位に1号ビット
2号溝	1-3区西端 X=36,770～36,772, Y=-44,414～-44,416	(0.98) × 0.83 × 0.24	N-7-T-E	南 0.07	
3号溝	1-3区西側 X=36,772～36,773, Y=-44,409～-44,411	(0.65) × 0.54 × 0.07	N-18-W	北 0.04	下位に2号ビット
4号溝	1-1区西側 X=36,791～36,792, Y=-44,332～-44,334	(0.66) × (0.82) × (0.35)	N-18-W	北 0.06	

3 土坑、ピット

東側の調査区である1区から土坑4基、ピット2基、西側の調査区である2区から土坑2基、ピット1基が検出されている。

（1）1号土坑（第22図、PL. 7）

位置 X=36,751～36,752、Y=-44,480～-44,482、2-4区西端に位置する。

形状等 東端は1号竪穴建物に削られ、西端は調査区外に及んでいるが、概ね円形に近い平面形状と考えられる。北側側が南側側より一段深くなっている。

規模 0.46×(0.27)×0.28m

主軸方位（度） N-19-E

埋没土 炭化物粒を含む、やや砂質の褐色土に覆われる。

重複 上位に1号竪穴建物。

遺物 図化には至らなかったが、埋没土から土師器片、須恵器片が出土している。

所見 本遺構の帰属年代は、1号竪穴建物の下位に位置することから奈良時代に比定される。

（2）2号土坑（第23図、PL. 7）

位置 X=36,767～36,768、Y=-44,427～-44,429、2-1区に位置する。

形状等 遺構の壁面は大きく外傾している。

規模 0.53×0.50×0.25m

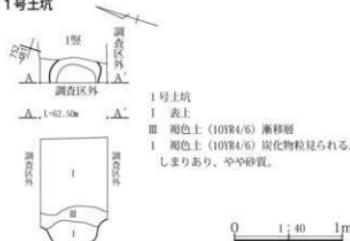
主軸方位（度） N-52-W

埋没土 褐色土に覆われる。

重複 なし

遺物 なし

1号土坑



第22図 1号土坑

第2節 確認された遺構

所見 調査所見によれば、覆土にはAs-Bの混入が認められるとの事であり、本遺構の帰属年代は、中世以降に比定される。

(3) 3号土坑 (第23,27図、PL. 7,9)

位置 X=36,774~36,776、Y=-44,398~-44,400、1-3区東側に位置する。

形状等 残存状況が良好とは言えず、外形は不整形な平面形状を呈している。底面は平坦で壁の立ち上がりは丸みを帯びている。

規模 0.96×0.77×0.27m

主軸方位(度) N-28-W

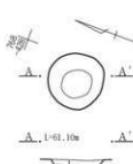
埋没土 褐色土粒、焼土粒、炭化物粒を含む暗褐色土に覆われる。

重複 下位に3号竪穴建物、4号竪穴建物。

遺物 底面と埋没土から須恵器杯(20,19)が出土している。このほか圓化には至らなかったが、埋没土から土師器杯、土師器甕が出土している。

所見 本遺構の帰属年代は、出土遺物から平安時代(9世紀後半)に比定される。3号竪穴建物、4号竪穴建物より新しい。

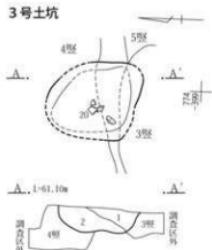
2号土坑



2号土坑

埋没土にAs-Bが混入する。
1 黒褐色砂質土(10YR2/3) 粘性なし、しまりゆるし。
2 褐色土(10Y4/6)粘性ややあり、しまりややゆるし。

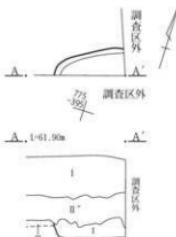
3号土坑



3号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/4) φ 2mm以上粒3%、φ 1mmにふくらむ褐色土粒(10YR6/3) 1%含む。しまりややゆるく、粘性ややあり。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) φ 1~5mm褐色土粒(10YR4/6) 20%、φ 1~5mm燒土粒5%含む。炭化物粒見られる。しまりややゆるく、粘性ややあり。

4号土坑



4号土坑

- I 表土
- II 暗褐色砂質土(10YR3/2) 燃土粒・炭化物粒みられる。
- 1 暗褐色土(10YR3/3) φ 1cmロームブロック5%含む。しまりややゆるく、粘性ややあり。
- III 褐色土(10YR4/6) 燃土層

0 1;40 1m

第23図 2~4号土坑

第3章 確認された遺構と遺物

全体形状等は不明である。断面形状からの推測ではあるが、土坑の中心部は未発掘の北東方向に存在したと考えられる。

規模 $(0.97) \times (0.28) \times 0.59m$

主軸方位(度) N-72-E

埋没土 にぶい黄褐色土に覆われる。

重複 下位に6号土坑が位置する。

遺物 なし

所見 As-B混土層と土師器片を含む層の2層が遺構直上に位置することから、本遺構の年代は中世以前に帰属すると推察される。6号土坑より新しい。

b 6号土坑

位置 X=36,784~36,786, Y=-44,359~-44,361, 1~4区西端に位置する。

形状等 東南辺の一部が確認されたにとどまるため、全体形状は不明である。

規模 $(1.20) \times (1.10) \times (0.49)m$

主軸方位(度) N-33-E

5・6号土坑



第24図 5・6号土坑

第4表 土坑一覧

遺構名	検出位置	形状	規模 (m)	主軸方位(度)	重複遺構
1号土坑	2~4区西端 X=36,751~36,752, Y=-44,480~-44,482	不明。有段	$0.46 \times (0.27) \times 0.28$	N-19-E	上位に1号堅穴建物
2号土坑	2~1区 X=36,767~36,768, Y=-44,427~-44,429	円形、丸底	$0.53 \times 0.50 \times 0.25$	N-52-W	
3号土坑	1~3区東側 X=36,774~36,776, Y=-44,398~-44,400	不整形、平底	$0.96 \times 0.77 \times 0.27$	N-28-W	3号堅穴建物、4号堅穴建物
4号土坑	1~3区東側 X=36,775~36,776, Y=-44,394~-44,396	不明、平底	$(0.65) \times (0.24) \times 0.15$	N-69-E	
5号土坑	1~4区西端 X=36,784~36,786, Y=-44,360~-44,361	不明	$(0.47) \times (0.28) \times 0.59$	N-72-E	下位に6号土坑
6号土坑	1~4区西端 X=36,784~36,786, Y=-44,359~-44,361	不明	$(1.20) \times (1.10) \times (0.49)$	N-33-E	上位に5号土坑

第2節 確認された遺構

埋没土 暗褐色土に覆われる。

重複 上位に1号溝。

遺物 なし

所見 本遺構の帰属年代は、1号溝の下位に位置するこ^{とから、9世紀以前に比定される。}

(7) 2号ビット (第25図、PL. 8)

位置 X=36,772~36,773、Y=-44,410~-44,411、1~3区西側に位置する。

形状等 遺構東端が3号溝に削平され、南端は調査区外に及ぶが、平面形状は概ね円形を呈すると推測される。底面は丸みを帯びる。

規模 (0.42) × (0.40) × 0.21m

主軸方位(度) N-11-E

埋没土 ロームブロックを含む褐色土に覆われる。

重複 上位に3号溝。

遺物 なし

所見 本遺構の帰属年代は、3号溝の下位に位置するので、9世紀以前に比定される。

(8) 3号ビット (第25図、PL. 8)

位置 X=36,772~36,773、Y=-44,405~-44,407、1~3区中央付近に位置する。

形状等 遺構南半が調査区外に及び平面形状は不明であるが、断面がU字状を呈していることから、平面形は概ね円形を呈すると推測される。

規模 0.32 × (0.20) × 0.23m

主軸方位(度) N-62-E

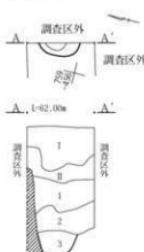
埋没土 黒褐色土に覆われる。

重複 なし

遺物 なし

所見 本遺構の帰属年代は不明である。

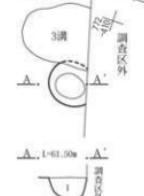
1号ビット



1号ビット

- I 表土
- II 暗褐色砂質土 (10YR3/2)
- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 壁土粒、炭化物粒見られる。しまりあり、粘性ややあり。
- 2 褐色土 (10YR4/4) φ 1cm壁土粒、炭化物粒各1%含む。しまりあり、粘性ややあり。
- 3 暗褐色土 (10YR3/3) しまり、粘性あり。

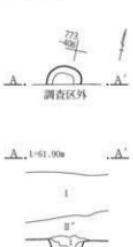
2号ビット



2号ビット

- 1 暗褐色土 (10YR4/4) φ 1cmロームブロック30%含む。しまりあり、粘性ややあり。

3号ビット



3号ビット

- 1 表土
- II' 黒褐色砂質土 (10YR3/2) 焼土粒、炭化物粒見られる。
- 1 暗褐色土 (10YR3/3) φ 1cmロームブロック5%含む。しまりややゆるく、粘性ややあり。
- 2 黒褐色土 (10YR2/1) しまりややゆるく、粘性ややあり。

0 1:40 1m

第25図 ビット

第5表 ピット一覧

遺構名	検出位置	形状	規模 (m)	主軸方位(度)	重複遺構
1号ビット	X=36,759~36,760、Y=-44,455~-44,456	不明、平底	(0.38) × (0.13) × 0.20	N-12-W	上位に1号溝
2号ビット	X=36,772~36,773、Y=-44,410~-44,411	円形、丸底	(0.42) × (0.40) × 0.21	N-11-E	上位に3号溝
3号ビット	X=36,772~36,773、Y=-44,405~-44,407	円形か、丸底	0.32 × (0.20) × 0.23	N-62-E	

第3節 出土遺物

出土した遺物の大半は土師器と須恵器である。総体として、土師器が主で須恵器が副となる遺物量を占めおり、灰釉陶器や内黒土器などはいたって少ない。土師器は甕などの大型品の破片が多めであり、須恵器は杯などの小型品の破片が多めの器種構成となっている。なお出土遺物の縦横断間に偏りがあり、古墳時代中期以前や平安時代中期以降の遺物は少ない。また6世紀代の遺物片はそれなりに含まれてはいるものの、形を成せず単品の小片にとどまっており、奈良時代を頂期とする集落変遷を反映していると推測される。平安時代中期以降の遺物としては、明治期の硬貨や昭和40年代の硬貨も出土しているように、中世以降の遺物の方がやや多いものの、これもまた形を成す遺物に欠ける雑多な破片のため、図化には至らなかった。

なお寺井庵寺隣接地であるにもかかわらず、瓦は2点しか出土せず、寺周辺の集落に瓦が流出していないよう

に見受けられるのは、寺と集落の同時性によるものであろうか。寺で生じた廃材の転用、流用についてなんらかの制約が設けられていたとも考えられる。また2-3区出土の転用窓と考えられる朱墨の残る8世紀前半の須恵器杯底部片(27)は寺井庵寺ないしは上野国新田郡家との関連でどうえられるべき遺物であろう。また9世紀に下るが4号竪穴建物の床面から出土した、外底に「村」と墨書きされた杯(7)も同様であろう。

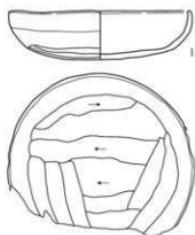
鉄製品と思われる遺物が1区から数点出土したが、いずれも小破片で形状を識別するに至らず、資料化の対象から除外した。

1区・2区あわせた全11区画の中で、遺構の検出されなかった地点は5区画あったが、遺構も遺物も出土しなかった地点は1区画であった。遺構の検出されなかった2区の南半にも調査区外に遺構が存在する可能性があると推測される。

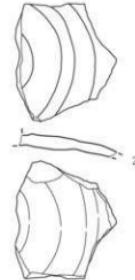
第6表 遺物出土状況

遺物出土場所	縦文	弥生	土師器	須恵器	灰釉陶器	埴輪	瓦	石製品	鉄製品	中近世	近現代
1 — 1 区 6号竪穴建物			○								
1 — 1 区 6・7号竪穴建物			○	○					○		
1 — 1 区 7号竪穴建物			○	○					○		
1 — 1 区 4号溝			○						○		
1 — 1 区			○	○	○		○		○	○	
1 — 2 区			○								○
1 — 3 区 3号竪穴建物	○		○	○	○		○		○		
1 — 3 区 3・4号竪穴建物			○	○							
1 — 3 区 4号竪穴建物			○								
1 — 3 区 3号土坑			○	○							
1 — 3 区 2号溝			○								
1 — 3 区 3号溝											
1 — 3 区			○	○	○						○
1 — 4 区 1号トレンチ			○								
1 — 4 区 2号トレンチ			○								
1 — 4 区											
2 — 1 区			○			○					○
2 — 2 区 1号溝			○	○							
2 — 2 区			○	○							
2 — 3 区 2号竪穴建物					○						
2 — 3 区			○	○							
2 — 4 区 1号竪穴建物			○	○				○		○	
2 — 4 区 1号土坑			○	○							
2 — 4 区											
2 — 5 区			○								
2 — 6 区											○
2 — 7 区										○	○
一括			○	○	○		○	○	○	○	○

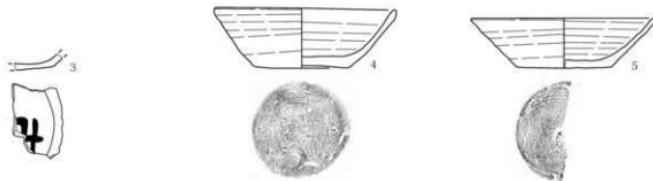
1号竪穴建物



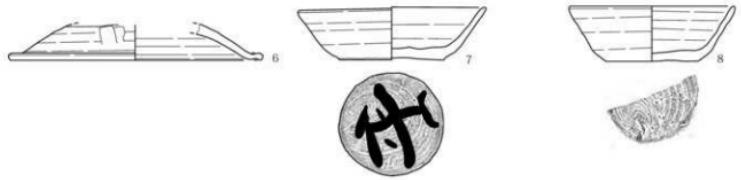
2号竪穴建物



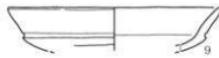
3号竪穴建物



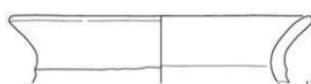
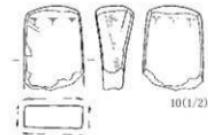
4号竪穴建物



5号竪穴建物



6号竪穴建物



0 1;2 4cm
0 1;3 10cm

第26図 出土遺物 1

第3章 確認された遺構と遺物

7号竪穴建物

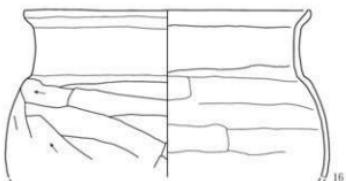
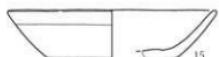
1号溝



14(1/1)



1号溝



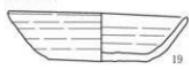
3号溝



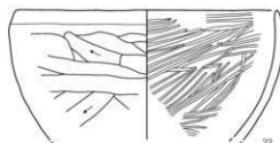
4号溝



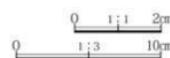
3号土坑



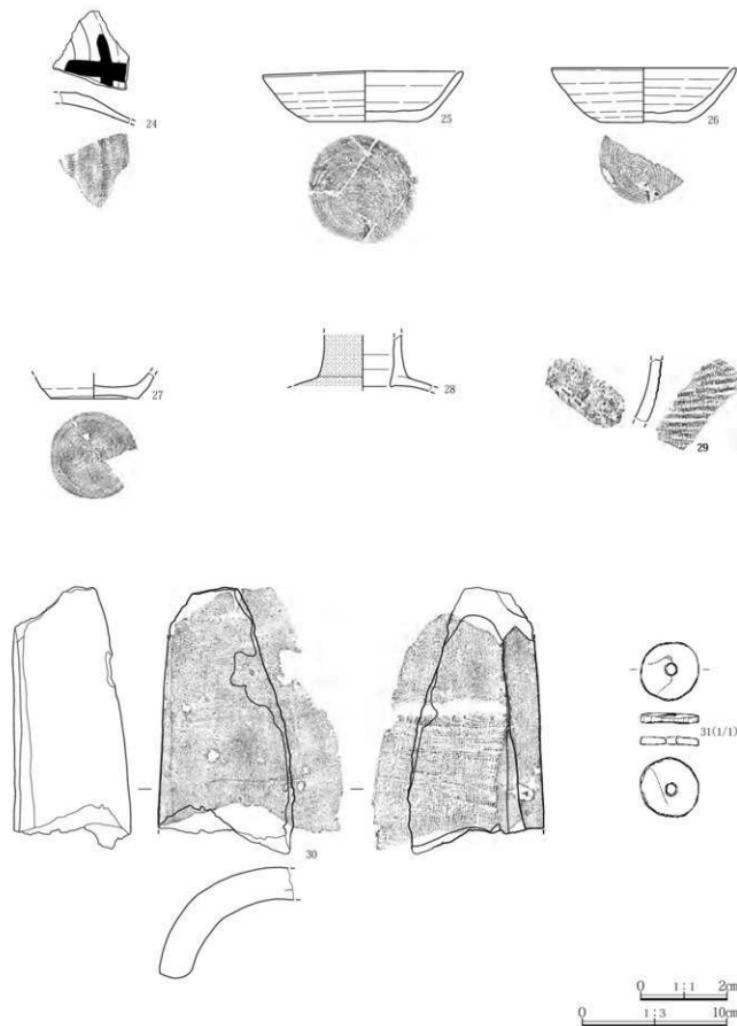
遺構外



第27図 出土遺物 2



遺構外



第28図 出土遺物 3

第3章 確認された遺構と遺物

第7表 遺物観察表

種 因 PL.No.	No.	種 類 器 物	出土位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石 材・素 材 等	成形・整 形 の 特 徴	備 考	
第26回 PL. 9	1	上師器 杯	1 磅理没上 3/4	□ 口底 底 12.5	高 10.3	3.4 細砂粒/良好/橙	□縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第26回 PL. 9	2	須恵器 杯蓋	2 整体面+ 3 cm 天井部片			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は回転ヘラ削り。	
第26回 PL. 9	3	上師器 杯	3 磅理没上 底部片			細砂粒/良好/明褐	底部と体部はヘラ削り。外面底部に墨書き。	
第26回 PL. 9	4	須恵器 杯	3 磅理没上 ほぼ完形	□ 口底 底 6.6	高 4.2	細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第26回 PL. 9	5	須恵器 杯	3 磅理没上 1/2	□ 口底 底 6.6	高 12.8	3.5 細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第26回 PL. 9	6	須恵器 杯蓋	3・4 磅理没上 口縁部～天井部 片	□ 口底 底 17.3		細砂粒/還元焰/暗 灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は中ほどまで回転ヘラ削り。口縁部は端部を折り曲げ。	
第26回 PL. 9	7	須恵器 杯	4 整体面+ 1 cm 3/4	□ 口底 底 7.1	高 12.8	3.6 細砂粒/還元焰/に ふい/黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。外 面底部に墨書き。	
第26回 PL. 9	8	須恵器 杯	4 整体面+ 5 cm 瓶 方 1/2	□ 口底 底 6.2	高 11.4	3.8 細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第26回 PL. 9	9	上師器 杯	6・7 磅理没上 口縁部～体部片	□ 口底 底 12.6	高 14.6	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にふい/黄 橙	□縁部は横ナデ、稜下体部は手持ちヘラ削り。	
第26回 PL. 9	10	砥石	6・7 磅理没上 長 幅	長 (3.9) (2.8)	厚 重 23.3	1.8 砥鉄石	四面使用。砥石上端側破片。表面とも研ぎ減り、糸巻状 の断面形状を呈す。上端小口部は丸く整形されている。	切り砥石
第26回 PL. 9	11	上師器 杯	7 整体面+ 6 cm 口縁部～底部片	□ 口底 底 12.7		細砂粒/良好/橙	□縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第26回 PL. 9	12	上師器 杯	7 89整体面+10 cm 埋没上 口縁部～体部片	□ 口底 底 17.5	高 14.2	細砂粒/良好/に ふい/橙	□縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第26回 PL. 9	13	上師器 甕	7 磅理没上 口縁部～胴部上 位片	□ 口底 底 20.4		細砂粒/良好/橙	□縁部は横ナデ、脚部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第27回 PL. 9	14	白玉	7 整体面+13 cm 幅	長 (1.5) 幅 1.7	厚 重 1.2	0.4 珪質粘板岩	略円形状を呈す。上面孔洞のみ残り。多方向に縱条痕がある。 下面孔洞は薄く剥がれていますが、意図的に分割した可 能性も考えさせてください。粗裂。	
第27回 PL. 9	15	上師器 甕	1 磅理没上 1/5	□ 口底 底 14.2	高 8.6	3.4 細砂粒/良好/橙	□縁部はヨコナデ。体部はヘラ削り、底部は手持ちヘラ 削り。	
第27回 PL. 9	16	上師器 甕	1 磅理没上 口縁部～胴部上 半片	□ 口底 底 19.8	高 22.4	細砂粒/良好/明赤 褐	□縁部から脚部は横ナデ、脚部はヘラ削り。内面は胴部に ヘラナデ。	
第27回 PL. 9	17	須恵器 杯	3 構成面+ 5 cm 1/2	□ 口底 底 12.3	高 6.4	3.8 細砂粒/還元焰/に ふい/黄褐	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。外 面底部に墨書き。内外面底部に焼け付着。	
第27回 PL. 9	18	上師器 杯	4 磅理没上 口縁部～底部片	□ 口底 底 11.7		細砂粒/良好/橙	□縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半と底部は手持 ちヘラ削り。	
第27回 PL. 9	19	須恵器 杯	4 磅理没上 3・4 磅理没上, 3・4 磅理没上 2/3	□ 口底 底 12.4	高 7.0	3.5 細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。外 面底部に墨書き。	
第27回 PL. 9	20	須恵器 杯	3・4 構成面 +4 cm、1・3 区 理没上 1/3	□ 口底 底 12.8	高 6.2	3.8 細砂粒/焼成化焰/黄 褐	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。底 部は疑似高台状を呈す。	
第27回 PL. 10	21	國文土器 深鉢	3 磅理方 口縁部破片			粗砂/ふつう	直状口縁で、波頂部に橋状突起を付すと思われる。突起下 端から口縁に沿って隆線をめぐらして口縁部無支帶を区 画。以下、沈線によるモチーフを施す。突起部にLR縁文を 施す。	加曾利 E 4式
第27回 PL. 10	22	國文土器 深鉢	3 磅理方 胴部破片				21と同じ体。2条辺縁による弧状モチーフを施し、文様 外にLR縁文を充填施す。	加曾利 E 4式
第27回 PL. 10	23	上師器 甕	1・1 区埋没上 口縁部～体部上 半片	□ 口底 底 17.9		細砂粒/良好/橙	□口縁部は横ナデ、口縁部から体部はヘラ削り。内面は全面 的にヘリミガキ。	

第3節 出土遺物

種類 PL.No.	No.	種類 種類	出土位置 現存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第28回 PL.10	24	須恵器 杯	1-3区埋没上 天井部小片		細砂粒/還元焰/黄 褐	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は中ほどまで回転ヘラ削り。外側に墨書き。	
第28回 PL.10	25	須恵器 杯	1-3区埋没上 1/4	口 底 7.5	13.8 3.5	細砂粒/酸化焰/に ふく褐色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。
第28回 PL.10	26	須恵器 杯	-括埋没上 1/4	口 底 6.4	12.6 3.8	細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。
第28回 PL.10	27	須恵器 杯	2-3区埋没上 底部↑	底 6.0	細砂粒/還元焰/灰 褐	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。内面に朱墨痕が残る。	
第28回 PL.10	28	灰釉陶器 長颈瓶	1-1区埋没上 颈部↑	頭 6.4	微砂粒/還元焰/灰 褐色	ロクロ整形、回転は右回り。颈部にて胴部と口縁部を接合。施釉部位不明。	
第28回 PL.10	29	須恵器 甕	1-4区埋没上 制脚小片		細砂粒/還元焰/黄 褐	叩き締め成形。外面には平行叩き痕、内面にはテチ具痕が残る。	
第28回 PL.10	30	瓦 丸瓦	1-1区埋没上 左侧片面		細砂粒/還元焰/暗 灰黄	型作り。外側はヘラナデ。内面は布目痕が残る。側面はヘラ削り。	
第28回 PL.10	31	臼玉	-括	径 1.4	厚 0.3 重 0.5	珪質粘板岩	表裏面とも線状斑等は見られない。分割面か剥落面のいはずれかであろうが、どちらとも言ひ難い。大型粗製品。

第8表 未掲載遺物(古墳時代～中世)

区	出土遺構	土師器			須恵器			施釉陶器	埴輪	瓦	中世
		大	中	小	大	中	小				
1 - 1 区	6・7号竪穴建物	142	831		23	69	1	12	2	25	
1 - 1 区	7号竪穴建物	2	61				1	63			
1 - 1 区	4号溝		22	124	5	20					
1 - 1 区		629	3370		64	296	12	128	8	67	2 19
1 - 2 区		4	30		2	27			2	27	2 24
1 - 3 区	3号竪穴建物			7	197				1	8	1 23
1 - 3 区	3・4号竪穴建物	86	372		2	1	3	27	8	10	
1 - 3 区	4号竪穴建物		3	8					2	31	
1 - 3 区	3号土坑		7	81	1	2			1	2	
1 - 3 区	2号溝		2	8							
1 - 3 区		192	771		4	67		2	28	59	560 1 22 5 81
1 - 4 区	1号トレンチ	3	10	1 4							
1 - 4 区	2号トレンチ	1	6								
1 - 4 区			3	22							
2 - 1 区		39	114		3	4	1	20	3	24	3 16 1 49
2 - 2 区	1号溝	32	98	2 20	5	17			3	8	
2 - 2 区		9	30	4 6	6	4					
2 - 3 区		170	472	5 42	38	103	6	89	14	63	
2 - 4 区	1号竪穴建物	39	148		18	24			5	14	1 1 1 16
2 - 4 区	1号土坑	15	127		1	12	1	19			
2 - 4 区		14	65		6	18	2	5	1	7	
2 - 5 区			6	33							
2 - 7 区										1	28
	一括	230	735	14 59	30	84	4	52	3	18	14 55 1 10 14 55
	小計	1650	7516	26 131	215	945	31	415	8	70	122 885 3 31 1 10 1 23 26 272

大小は想定器形の大小に基づく。小は杯・碗・皿など、中は高杯・小型甕など、大は甕・羽釜・壺など。
左 破片点数、右 破片重量(g)

第9表 剥片、礫集計表

区	遺構名	石材	出土点数	総重量(g)	備考
2 - 4 区	1号竪穴建物	ホルンフェルス	1	499.1	礫
1 - 1 区	4号溝	チャート	1	31.3	礫
1 - 1 区	4号溝	チャート	1	3.9	礫片
1 - 1 区		チャート	1	1.2	剥片
2 - 2 区		チャート	1	5.3	剥片
2 - 3 区		チャート	1	1.3	剥片

第4章 まとめ

1 石橋町周辺の地形について

南流する渡良瀬川の齧した轍塚礫層の直上に上部ローム層基底のAs-BPが堆積し、層厚1m前後の上部ローム層に覆われた大間々扇状地は、東に位置する八王子丘陵との間に低地帯である谷底平野を挟み太田市西部に広がる。扇状地の東端は扇端部から金山丘陵に向かって、東南方向に半島状に飛び出したような形となっており、この半島状の場所の根方に石橋地蔵久保遺跡や成塚石橋遺跡が存在している。この大間々扇状地東扇側部南端の地形について中山（1991）は、八王子丘陵西麓の低地帯を「渡良瀬川の名残川」とし、成塚石橋遺跡周辺の地形分析をもとに、「扇状地離水時に残された旧河道近くに位置しているがための離水の遅れ」により遺跡地の「礫層の上位にAs-BPが認められなかった」と述べている。以下この視点を基に論を進める。

第29図は八王子丘陵西麓付近の地形図と農研機構の土壤図を重ね合わせたものである。両図をつなぐ鉤となる基点が得られず、縮尺の調整に難もあるため、両図の位置関係にややずれが生じてしまっているが、土壤種別と地形との概ねの関係は理解されよう。なお図下部の黒丸が石橋地蔵久保遺跡であり、成塚石橋遺跡はその北東に300m程離れた所に存在する三角形をした褐色低地土の一画の西辺付近に位置する。

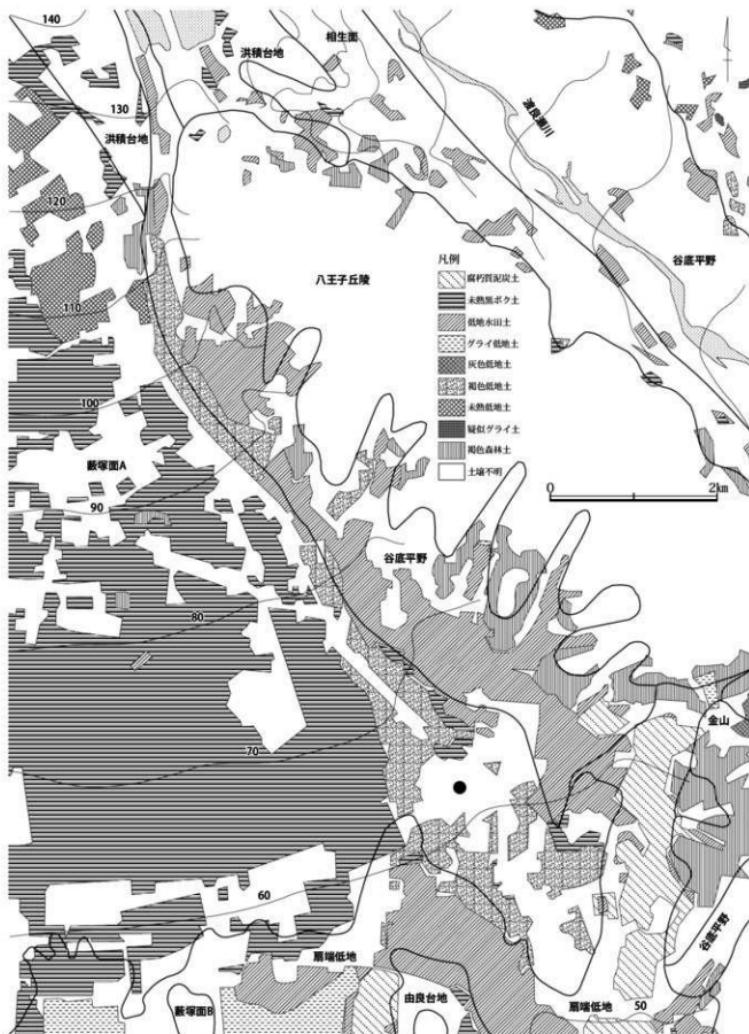
地形図と土壤図との対照において、扇状地と未熟黒ボク土、谷底平野と低地水田土とが対になっている。また扇状地と谷底平野との境となる扇側部には低地水田土と同様に、河川氾濫に由来するとされる低地土に分類された褐色低地土の広がりが認められる。この褐色低地土の広がりは東扇側部の八王子丘陵北端近くから始まり東扇側沿いに扇側部南端まで続いている。またこの褐色低地土帶の上流側（図の西北隅）には黒ボク土に挟まれた未熟低地土の一画が存在している。農研機構の土壤インベントリーによれば、未熟低地土は「現在または過去の河床にしばしば見いだされる」とあり、未熟黒ボク土は「堆積した火山放出物が、ある程度の土壤化作用を受け」た

ものであるとすれば、この未熟低地土と褐色低地土を含む扇状部分も離水の遅れた場所ととらえることができるのではなかろうか。或いは段階的に流路が収束していく過程の反映を見るべきであろうか。なお「新田町誌」に掲載されている轍塚面形成の最終段階である「轍塚面の形成過程Ⅲ期」に示された渡良瀬川の流路は、鹿田山の西を流れ下り八王子丘陵北端の西で3条に分流し、その東側流路の南半は東扇側の南端に位置するこの半島状の場所を流下している。

成塚石橋遺跡では礫層・砂層の上位から純粋なロームの堆積は確認されておらず、その南に位置する石橋地蔵久保遺跡4区ではローム層自体が確認されていない。石橋地蔵久保遺跡4区は轍塚礫層と目される砂礫層の直上からは若干黄色がかった褐色土や灰色砂質土ブロックを含む灰黄色土が確認されている。また成塚石橋遺跡の北西1kmほどに位置する西長岡南遺跡、菅塙西両台遺跡からはロームの水成堆積、成塚石橋遺跡（Ⅲ）からは砂質のロームが確認されており、成塚永昌寺遺跡からはローム層は検出されていない。とはいっても今回の調査成果を含め周辺の発掘調査記録によると、上述の遺跡を別とすれば、石橋地蔵久保遺跡4区より西の褐色低地土帯に位置するとと思われる21地点中の3地点を除き、ローム層ないしローム漸移層が報告されている。また扇状地東南端の半島状の一画は土壤不明の場所が過半であるが、褐色低地土の中に黒ボク土が点在する場所となっている。今回の発掘調査地点を除き多くの地点でAs-BPの存在自体は明記されておらず、表土の攪乱がローム層近くまで及んでいると思われる場所も多く、砂礫層直上の堆積状態を明言できる状況もないが、大間々扇状地東扇側部の離水にはAs-BP降下時期を挟み、それなりの段階・過程と時間が介在した証左と思われる。

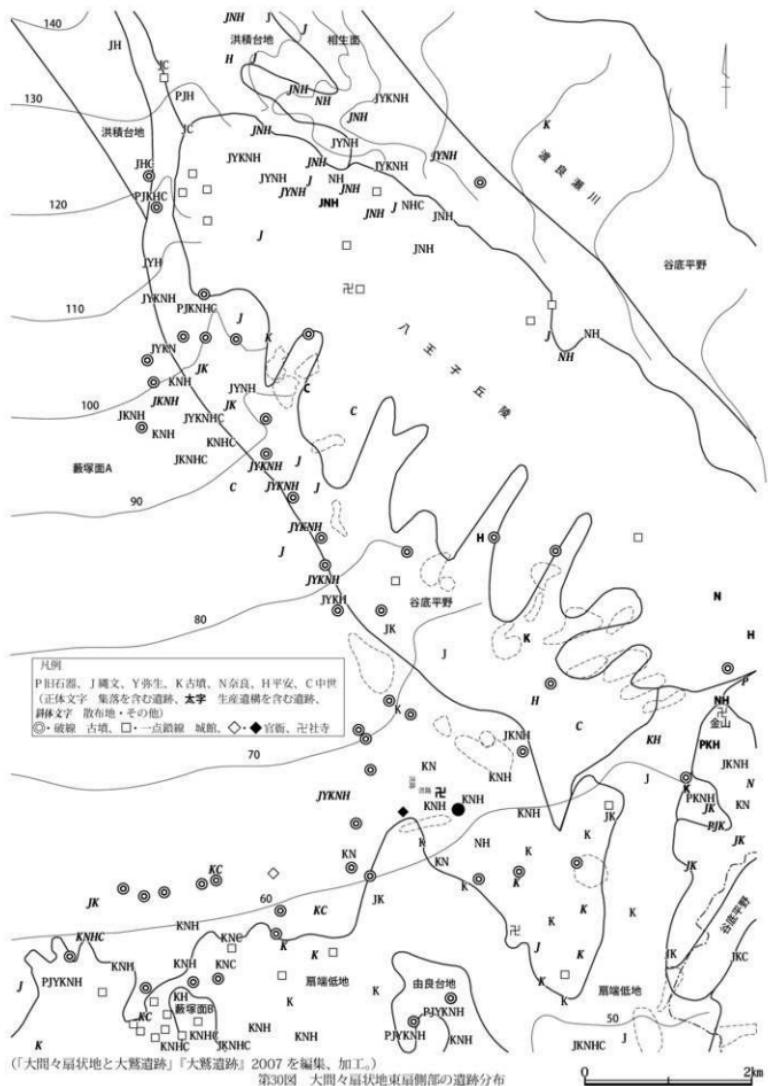
2 石橋町周辺の遺跡分布について

枯野と呼ばれた笠懸野にあって、大間々扇状地と八王子丘陵西麓の谷底平野との境に位置する東扇側部の低地土帯は縄文時代から生活拠点とされてきた場所であり、



(農研機構「日本土壤インベントリー土壤図」と「大間々扇状地と大鷦遺跡」「大鷦遺跡」2007を編集、加工。)

第29図 大間々扇状地東扇側部の地形と土壤



扇側部東端から扇端部にかけての場所も古墳時代以降の生活拠点となっている（第30図）。大間々扇状地（成塚面）の東扇側部と扇端部付近は、「第一軍管区地方2万分1迅速測図」で畠地とされている領域とほぼ重なる。荒蕪地ながらそれなりに水利を得られた場所なのである。阿由葉（1970）に基づけば、扇側部はその限りではないが、大間々扇状地の扇端部付近（前述した東南端の半島状の場所ではその根方部分）では、「迅速測図」で畠地とされる範囲は概ね地下水位が2mから3m程度の場所と推定される。なお寺井廃寺や上野国新田郡家跡もこの範囲に収まっている。

この扇端部付近は東扇側部に比べ弥生時代以前の遺構が少ない場所でもある。ところで扇端湧水帯とも呼ばれる扇端部の湧水地群は標高60m以下の扇端低地を中心に存在する。標高60m以上の湧水地は極めてまれであり、120個所といわれる新田地域の湧水地の中でも標高60m以上の成塚面に存在する湧水地は4箇所にとどまる。上野国新田郡家跡や寺井廃寺、石橋地蔵久保遺跡などは扇端湧水帯とは距離を置いた、成塚面の標高60mラインよりも高い場所に立地している。成塚石橋遺跡は中山（1991）により旧河道の存在が指摘されており、また寺井廃寺周辺で時期未詳の流路跡も確認されているが、いずれにしても水利に乏しい成塚面に立地する遺跡であり、汲み上げた水への依存度はそれなりに高かったと推測される。

東扇側部と扇端部付近に存在する遺跡からは古墳時代、奈良時代、平安時代のすべての時代の遺構が発見されるが、扇端東端の半島状の場所に限っては古墳時代の遺構に限定される傾向にある。なお半島状の場所でも、その根方にある石橋地蔵久保遺跡周辺は古墳時代から平安時代に至る遺構が混在している（第31図）。

成塚石橋遺跡の東に位置する成塚住宅団地遺跡群から360棟ほどの古墳時代中期の堅穴建物と1辺100m前後の方形区画が発見されており、成塚石橋遺跡はその拠点地域の周辺部を構成する集落と考えられる。石橋地蔵久保遺跡の古墳時代堅穴建物の初現は成塚石橋遺跡より1世紀ほど遅れる古墳時代後期と想定されており、扇側部から扇端部付近にかけて徐々に居住域が拡張する端緒と思われる。その後奈良時代に至り上野国新田郡家や寺井廃寺などが築かれるようになると、石橋地蔵久保遺跡周

辺にも集落が形成されるようになったと推測される。この集落は奈良時代に最盛期を迎えたのち、平安時代に至ると石橋町周辺の居住はまばらとなり、扇端湧水帯に近い久保遺跡などに集落の中心が移っていたと推測される。

参考資料

- 阿山薰元1970「群馬県大間々扇状地における自由面地下水について」『胸澤地理』(駒澤大学地理学研究報告) 6・7 pp.117-124
 大江正行1996「第2章2.基本層位」『西長岡南道路・塩塩西両道路、成塚永昌寺道路・成塚石橋道路Ⅲ』財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団pp.2-3
 太田市教育委員会2010「太田市内遺跡5」太田市教育委員会
 太田市教育委員会2011「太田市内道路6」太田市教育委員会
 太田市教育委員会2012「太田市内道路7」太田市教育委員会
 太田市教育委員会2015「太田市内遺跡10」太田市教育委員会
 太田市教育委員会2019「太田市内道路14」太田市教育委員会
 太田市教育委員会2020「太田市内道路15」太田市教育委員会
 太田市教育委員会2022「太田市内道路17」太田市教育委員会
 企画調整課町誌編さん係1990「第1章第1節大地作り立ち」『新田町誌 第1巻通り編』新田町pp.3-20
 群馬県農政部土地改良課1997「各論1 3地形細説」「土地分類基本調査 図幅名索引及足利郡群馬郡pp.12-23
 参謀本部陸軍測量局「第一軍管区地方2万分1迅速測図原図(農研機構)」(<https://www.arcgis.com/home/webmap/viewer.html?useExisting=1&layers=a1b81ad0d0x74ab2972e1ce103197047>) 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構(農研機構)
 高島英之2007「第1章第2節調査の経過」「石橋地蔵久保遺跡」群田市
 群馬県埋蔵文化財調査事業団pp.2-5
 中山茂樹1991「三・1日河道について」「成塚石橋道路Ⅲ」財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団pp.154-156
 新田環境みらいの会2006「新田地域の湧水地」太田市役所新田総合支所農研機構「日本土壤インベントリー」(<https://soil-inventory.rad.naro.go.jp/figur.html>) 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構(農研機構)
 松本和明1991「6.久保遺跡」「埋蔵文化財発掘調査年報1」太田市教育委員会pp.103-119

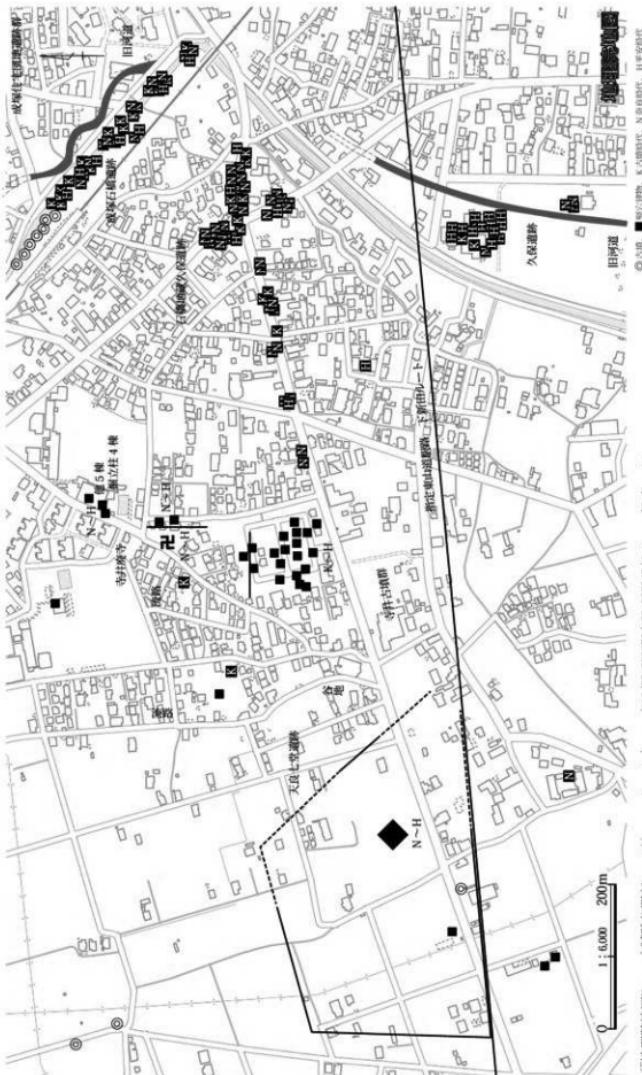


図 154 旧河岸と築堤の「成塙石造」を調査、加工。
〔地図院地図Vector(試験公開) [〕](https://maps-gsi.gsi.go.jp/vector/#16/36.23048/131.39048&ls=std&disp=1)

図 151 石橋町周辺の古跡分布模式図

写 真 図 版



1 石橋地蔵久保道路 1 区の調査着手時の状況(西から)



2 石橋地蔵久保道路 2 区の調査着手時の状況(東から)

PL.2



1 令和3年度立会調査地点(1～4区)の着手時の状況(東から)



2 1～1区全景(東から)



3 1～2区全景(東から)



4 1～3区全景(東から)



5 1～4区1号トレンチ全景(東から)



1 1-4区2号トレンチ全景(東から)



2 2-1区全景(東から)



3 2-2区全景(東から)



4 2-3区全景(東から)



5 2-4区全景(東から)



6 2-5区全景(東から)



7 2-6区全景(東から)



8 2-7区全景(東から)

PL.4



1 1号竖穴建物全景(北東から)



2 1号竖穴建物西半土層断面(北から)



3 1号竖穴建物東半土層断面(北から)



4 2号竖穴建物全景(東から)



5 2号竖穴建物全景(南東から)



6 2号竖穴建物東半土層断面(南から)



7 2号竖穴建物西半土層断面(南から)



8 3・4・5号竖穴建物全景(東から)



1 3・4・5号豊穴建物全景(北東から)



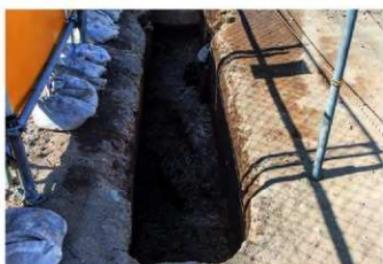
2 3・5号豊穴建物西側土層断面(北から)



3 3・5号豊穴建物東側土層断面(北から)



4 3・5号豊穴建物中央部土層断面(北から)



5 6・7号豊穴建物全景(東から)



6 6・7号豊穴建物全景(北東から)



7 6・7号豊穴建物中央部土層断面(北から)



8 6・7号豊穴建物西側土層断面(北から)

PL.6



1 6・7号竪穴建物東側土断面(北から)



2 1号溝全景(東から)



3 2号溝全景(北から)



4 1号溝土断面(西から)



5 3号溝全景(北から)



6 4号溝全景(北から)



7 1号土坑全景(西から)



8 1号土坑土断面(東から)



1 2号土坑全景(東から)



2 2号土坑土断面(西から)



3 3号土坑全景(北から)



4 3号土坑土断面(東から)



5 4号土坑全景(北から)



6 5・6号土坑全景(北から)



7 5・6号土坑全景(西から)



8 5・6号土坑土断面(南から)

PL.8



1 5・6号土坑土層断面(東から)



2 5号土坑土堆積状態(南東から)



3 1号ピット全景(東から)



4 1号ピット土層断面(西から)



5 2号ピット全景(西から)



6 2号ピット土層断面(西から)



7 3号ピット全景(北から)

1号竖穴建物



1

2号竖穴建物



2

3号竖穴建物



3



4



5



6

4号竖穴建物



7



8

6号竖穴建物



9



10(1/2)



7号竖穴建物



12



13



14(1/1)

1号溝



15



16

3号溝



17

4号溝



18

3号土坑



19



20

PL.10

造構外



21



22



23



24



25



26



27



28



29



30



31(1/1)

報 告 書 抄 錄

書名ふりがな	いしばしじぞうくぼいせき に
書名	石橋地蔵久保遺跡(2)
副書名	(主)足利伊勢崎線天良工区歩道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	721
編著者名	佐藤元彦
編集機関	公益財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20230322
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	いしばしじぞうくぼいせき
遺跡名	石橋地蔵久保遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんおむたししいしばしまち・てらいまちしない
遺跡所在地	群馬県太田市石橋町・寺井町地内
市町村コード	10205
遺跡番号	T0442
北緯(世界測地系)	361949
東経(世界測地系)	1392019
調査期間	20210201 - 20210331, 20211004 - 20211005
調査面積	477.24
調査原因	県道整備
種別	集落
主な時代	奈良/平安
遺跡概要	集落-古代-竪穴建物7+溝4+土坑6
特記事項	
要約	上野国新田郡家跡、寺井庵寺周辺の集落遺構の分布状況の一端が得られた。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第721集

石橋地蔵久保遺跡(2)

(主)足利伊勢崎綱天良工区歩道整備事業に伴う理蔵文化財発掘調査報告書

令和5(2023)年3月17日 印刷
令和5(2023)年3月22日 発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gumaihbn.org/>

印刷／杉浦印刷株式会社
